

豊かな

北海道農業農村整備推進方針

村空間の創造



北海道農政部
令和4年3月

改定にあたって

- 本道農業・農村が将来にわたって持続的に発展し、今後とも、安全・安心な「食」を安定的に供給していくためには、農業農村整備を推進することが重要となっており、道では、その展開方向を明確にし、今後の進め方や重点的な取組などをわかりやすく示した「北海道農業農村整備推進方針（以下：推進方針）」を平成17年3月に策定、24年9月に改定し、地域資源が持つ機能と魅力が十分発揮される「豊かな農村空間の創造」を目標に取組を進めてきました。
- しかしながら、近年、TPP11協定などによる経済のグローバル化の進展のほか、農家戸数の減少や高齢化の進行、地域コミュニティの活力低下、さらには、大雨や地震などの自然災害が頻発・激甚化するなど、本道の農業・農村を取り巻く情勢は大きく変化しています。
- また、自動走行トラクタなどスマート農業の急速な普及により、光ファイバなどの情報通信基盤の整備が求められるとともに、「持続可能な開発目標」SDGsへの世界的な関心の高まりにより、温室効果ガス削減の取組が重要になるなど、新たな課題への対応が必要となっています。
- こうした中、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、一部の国では、自国の食料確保を優先し、農産品や食料品の輸出を規制する動きがみられるなど、改めて、国内における食料自給の重要性が認識され、我が国最大の食料供給地域である本道の役割はますます重要となっており、農業農村整備に対する期待も高まっています。
- 一方、整備に必要な農業農村整備関係予算は、近年、補正予算が大きなシェアを占めており、安定的な予算の確保が課題となっているほか、経年劣化が進行する農地・農業水利施設等の計画的・効果的な整備に向けた構想づくりや、頻発する自然災害の迅速な復旧に対応するため、農業農村整備に精通した地域の意向を取りまとめる調整力の高い人材の確保・育成が重要となっています。
- 道では、こうした情勢の変化や新たな課題に的確に対応するため、農業農村整備に関する共通の指針となっている「推進方針」を改定し、国や市町村、関係機関・団体などとの連携・協働を一層強化することにより、本道における農業農村整備を計画的・効果的に展開し、多様な担い手と人材が輝き持続可能で生産性が高く力強い農業・農村の確立に取り組んでいきます。

目次

0 1	推進方針の位置付け	1
	1．推進方針の位置付け	1
	2．農業農村整備とは	1
0 2	農業・農村を取り巻く情勢の変化と課題	3
0 3	農業農村整備がめざすもの ～ 豊かな農村空間の創造 ～	5
0 4	農業農村整備の展開方向	7
	1．いのちの源「食」の生産をささえる	7
	2．多様な担い手と地域をささえる	10
	3．豊かな農村環境をささえる	12
0 5	農業農村整備の進め方	13
0 6	道の取組	14
	1．地域支援の取組	14
	(1) 地域の課題解決に向けた支援	
	(2) 農業農村整備に精通した人材の確保・育成	
	2．効果的・効率的な農業農村整備の推進	16
	(1) 戦略的な保全管理	
	農地や農業水利施設等の保全管理	
	「農地・施設保全整備情報」等を活用した計画的な整備	
	(2) きめ細かな整備	
	(3) 新たな技術の導入とコストの低減	
	3．環境に配慮した農業農村整備の推進	20
	4．道民の理解と地域住民等の参加の促進	21
0 7	地域編	22
<資料>	用語解説	51

01

推進方針の位置付け

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

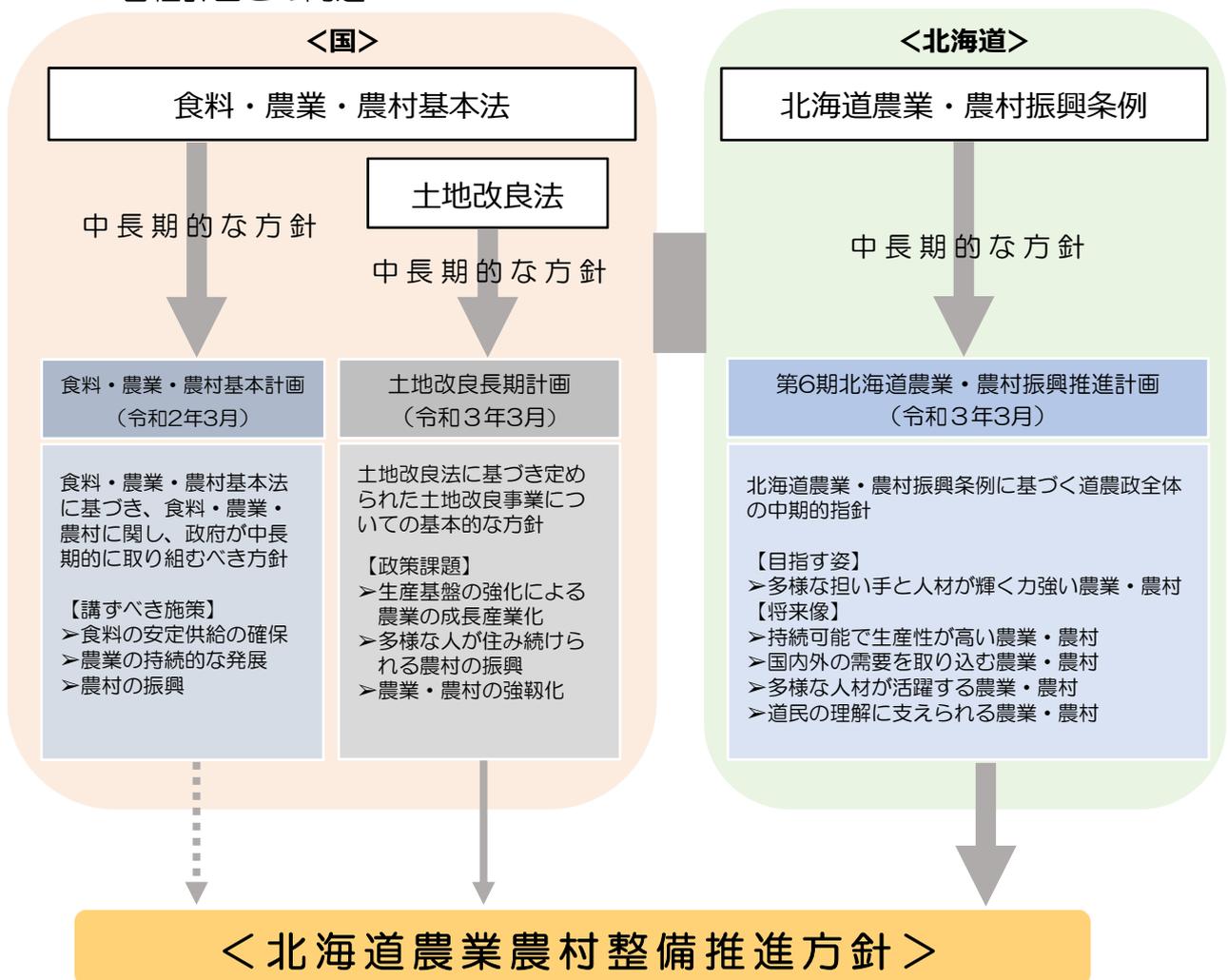
地域編

用語解説

1. 推進方針の位置付け

この推進方針は、将来にわたって、農業・農村が持続的に発展し、生命と健康の源である安全・安心な「食」を安定的に供給していけるよう、本道における農業農村整備の展開方向を明確にし、今後の進め方や重点的な取組などを農業者や農業関係団体、市町村をはじめ道民の皆さんにわかりやすく示すものです。

■ 各種計画との関連



2. 農業農村整備とは

農業農村整備は、農業の生産基盤と農村の生活環境の整備を通じて、農業の持続的発展や農村の振興を図り、「食」の安定供給の確保や農業・農村が有する多面的機能の発揮を目的とする取組です。

生産と生活を支える農業農村整備

農業農村整備では、農作物の収量や品質、農作業効率を向上させる区画整理や暗渠排水、農業水利施設、農道など、農業の生産を支えるための整備を行っています。

また、頻発・激甚化する自然災害に備える防災・減災対策や集落の生活環境を向上させる施設など、農村の生活を支えるための整備を行っています。そのほか、農村の地域資源を活かした都市と農村との交流や地域住民も参加した保安全管理活動など、農業・農村の多面的機能を発揮させる取組も行っています。



区画整理

農地の区画を大きくしたり、勾配を緩くして農作業を効率化します



暗渠排水

農地の中に管を配置して、透排水性を改善します



土層改良

新しい土を農地に搬入して、土壌の性質を改善します（客土の例）



用水路

農業用水を安定的に供給します



排水路

雨水などを速やかに排出します



農道

農産物の輸送を効率化します



畑地かんがい

干ばつによる被害を防ぎ、新たな作物の導入も可能とします



草地整備

良質な自給粗飼料の生産・利用拡大を図ります



営農飲雑用水

家畜の水や農業機械の洗浄水、地域住民の飲み水を確保します



ため池

耐震化、老朽化対策等を進め、農業用水を確保します



農村ツーリズム

地域ぐるみでの受け入れによる都市と農村との交流を促進します



保安全管理活動

地域住民との共同活動により、施設の保安全管理を促進します

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

02

農業・農村を取り巻く情勢の変化と課題

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

本道は、全国の約4分の1を占める耕地面積を活かし、大規模で専門的な土地利用型農業を中心に生産性の高い農業を展開しており、その経営規模は年々拡大しています。

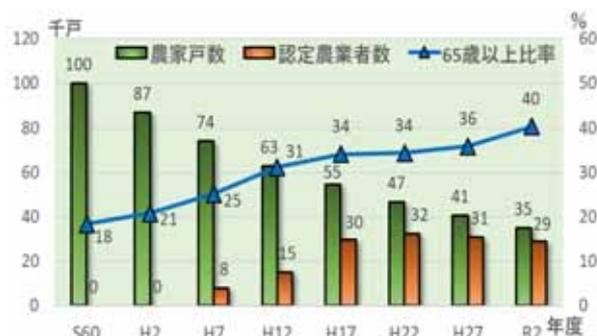
一方、農家戸数の減少や農業者の高齢化、担い手不足などの課題に直面しています。

■ 戸当たり経営耕地面積 (ha/戸) の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」

■ 農家戸数、認定農業者と65歳以上の農業従事者数



資料：農林水産省「農林業センサス」、北海道農政部調

近年、TPP11協定や日EU・EPAなど、国際化の動きが進展しており、安価な輸入農産物や農産加工品の流通などに伴う国内の農産物価格の低迷等により農業所得の低下が懸念されるなど、農業経営を取り巻く環境は、厳しい状況となっています。

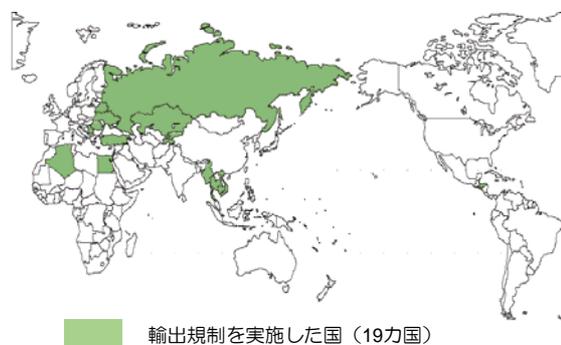
新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、一部の国では、自国の食料確保を優先するため、農産品や食料品の輸出を規制する動きがみられるなど、改めて、国内における食料自給の重要性が認識され、我が国最大の食料供給地域として安全・安心で良質な「食」を安定的に供給している本道農業・農村の役割は、ますます重要となっています。

■ 日本の食料自給率の推移



資料：農林水産省HP

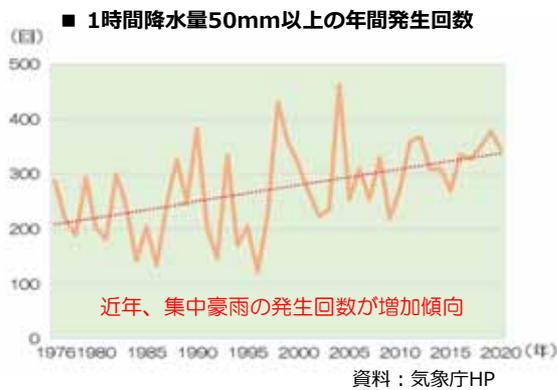
■ 農産物・食品の輸出規制



輸出規制を実施した国 (19カ国)

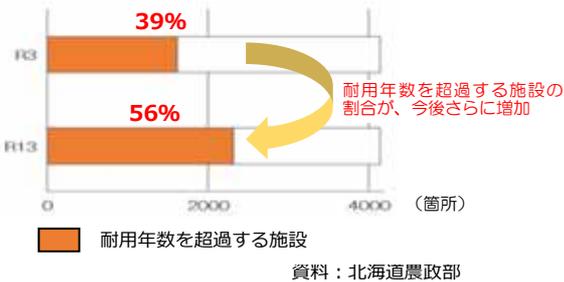
資料：農林水産省「令和2年度 食料・農業・農村の動向」

大雨や地震などの自然災害が頻発・激甚化する中、農作物を安定的に生産していくためには、暗渠排水などの農地の排水対策はもとより、排水路や排水機場などの施設を総合的に整備するほか、農業水利施設の耐震化を進めるなど、農村地域の防災・減災対策を推進し、災害に強い農業・農村を構築していくことが必要となっています。



道内の農業水利施設等は、農作物の品質や生産性の向上、農地の効率的な利用などに大きく貢献してきましたが、整備されてから相当の期間が経過し、多くの施設が耐用年数を超過するなど、老朽化に伴う機能の低下が懸念されています。

■ 耐用年数を超過する農業水利施設
(道内の基幹的施設)



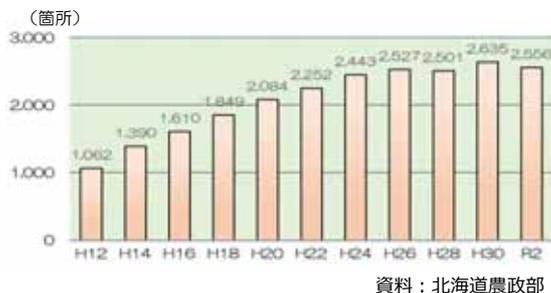
■ 老朽化した水利施設



農村では、地域の担い手の減少や高齢化が急速に進み、集落機能の低下が懸念されており、農業者のみならず地域住民なども参画した農業水利施設等の保安全管理活動などの取組促進が必要となっています。

北海道の雄大な自然や美しい田園風景は、豊かな地域資源として高く評価されており、食育や地産地消、農村ツーリズムなどの取組を通じて、安全・安心な「食」の供給や多面的機能の発揮など、農業・農村の役割に関する消費者の理解を深める必要があります。こうした中、教育旅行などの農村ツーリズムの需要が増加する一方、受入先の農業者の労働負担が課題となっており、受入先の確保が重要となっています。

■ 直売所、農業体験施設、ファームインなどの施設数



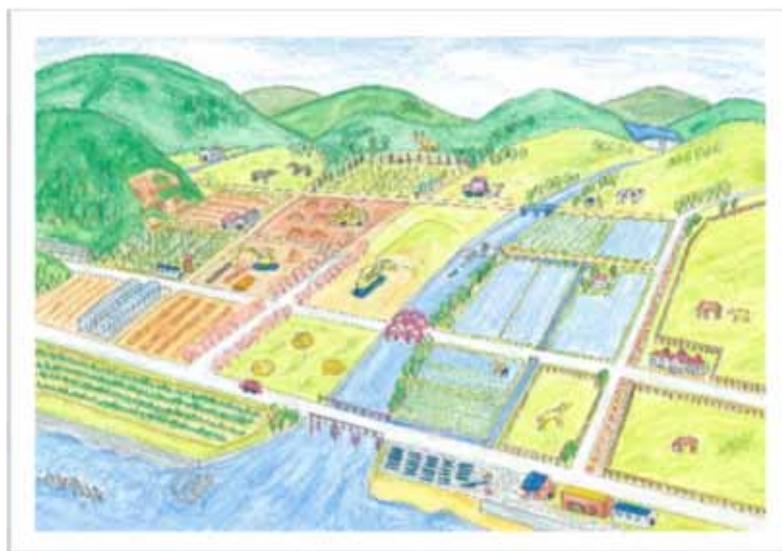
北海道は、広大な農地と恵まれた水資源を活かした我が国最大の食料供給地域として、道民のみならず広く国民に生命と健康の源である「食」を安定的に供給する重要な役割を担っています。また、農村地域は、豊かな大地ときれいな水・空気、四季が織りなす美しい景観を有し、農村に住む人々や訪れる人々に“うるおい”や“やすらぎ”を与えています。

このような役割を担う本道の農業・農村を持続的に発展させ、次世代に引き継いでいくためには、農村地域の持つ「農地」「農業用水」「農業用施設」「自然環境」「農村景観」の5つの地域資源が有機的に結びつき、良好な状態に保たれるよう保全・整備し、多面的機能が十分に発揮される豊かな農村空間を創造していくことが重要です。

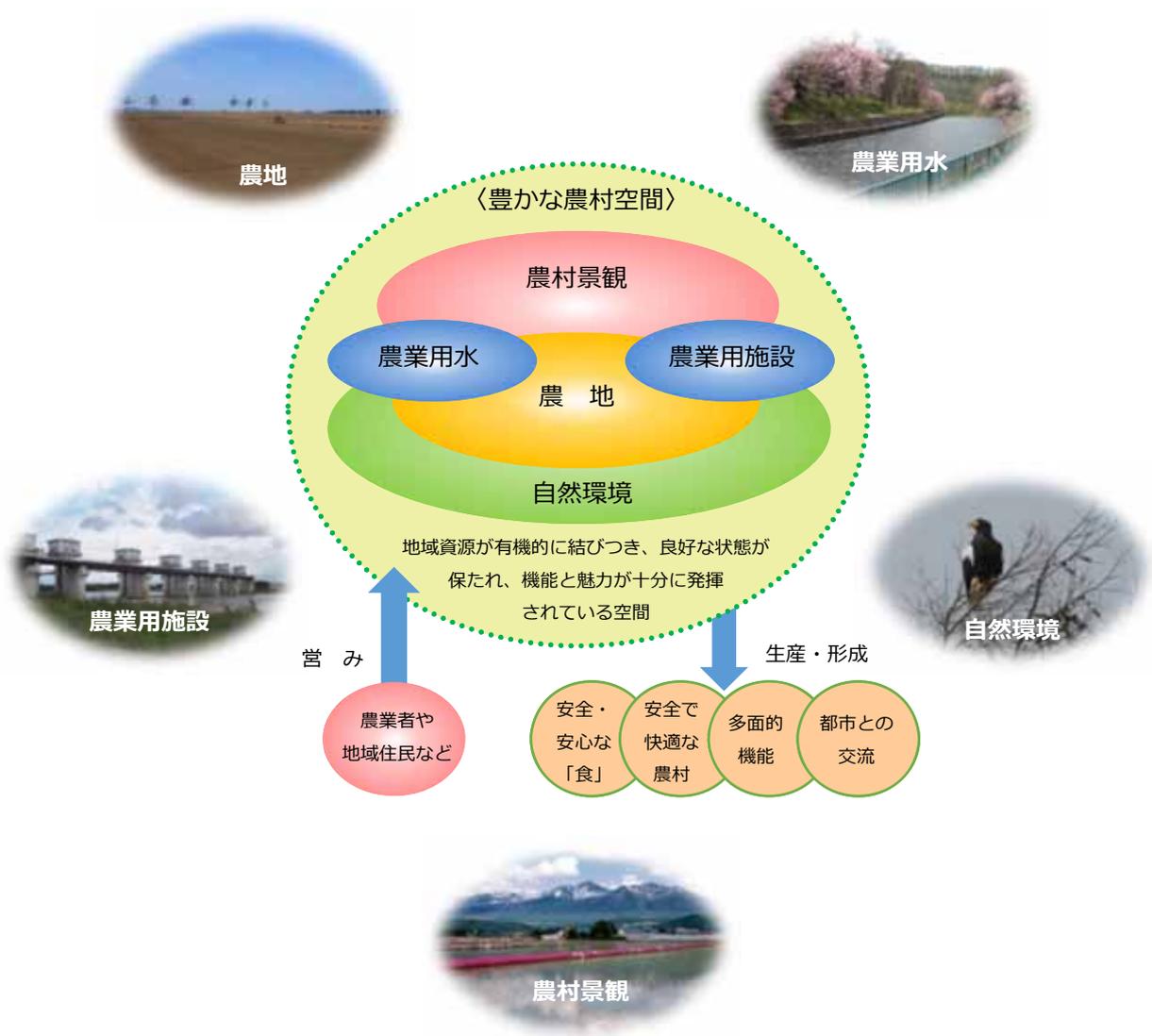
5つの地域資源

- 安全・安心で良質な農産物を持続的に生産できる優良な「農地」
- 安定的な生産に必要な水量と水質が確保された「農業用水」
- 効率的な農業生産や快適な農村生活を営む上で機能的で活用しやすい「農業用施設」
- 多様な生物が生息する健全な生態系が保たれた「自然環境」
- 農地や自然、農業用施設などが調和し、住む人や訪れる人にうるおいとやすらぎを与える美しい「農村景観」

こうした豊かな農村空間を支え・活かす農業者や地域住民などの営みにより、安全・安心な「食」が生産されるとともに、安全で快適な農村づくりの実現や多面的機能の発揮、都市との交流の促進などにより、活力に満ちた魅力ある農村がつくられます。



活力に満ちた魅力ある農村



地域資源	主な要素
農地	水田、普通畑、牧草地など
農業用水	かんがい用水、営農用水など
農業用施設	ダム、ため池、用排水路、農道、農業集落排水施設、農村公園など
自然環境	河川、林地、湿地、動植物など
農村景観	農地景観、集落景観など

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

農業・農村が直面している農家戸数の減少や農業者の高齢化、頻発・激甚化する自然災害、過去に整備された農地や農業水利施設等の老朽化による機能低下など、本道の農業・農村を取り巻く情勢は大きく変化しています。また、世界的なSDGsへの関心の高まりにより温室効果ガス削減の取組が重要となるなど、新たな課題への対応が必要となっています。こうした中、本道農業の生産力・競争力の強化を図るためには、安全・安心で良質な「食」の安定的な生産と、それを支える意欲ある多様な担い手の育成・確保に向けた整備を重点的に推進するとともに、農地や農業水利施設、生態系や農村景観などの保全に積極的に取り組むことが必要です。

このため、『いのちの源「食」の生産をささえる』、『多様な担い手と地域をささえる』、『豊かな農村環境をささえる』の3つに重点化した取組を全道で展開し、豊かな農村空間の創造を目指します。

- いのちの源「食」の生産をささえる
- 多様な担い手と地域をささえる
- 豊かな農村環境をささえる

豊かな
農村空間
の創造

1. いのちの源「食」の生産をささえる

関連するSDGsの目標



－安全・安心で良質な「食」を安定的に生産・供給する基盤づくり－

世界の食料需給は、途上国を中心とした人口増加や経済発展に伴う食生活の変化などにより需要が増加している一方、異常気象による水資源の制約や、土壌流亡、大規模自然災害の頻発などにより、供給がひっ迫することが懸念されています。また、国内でも、全国的に大雨や地震などの大規模自然災害が頻発し、道路や河川のほか、農地や農業水利施設など、農村の生活や農業生産の基盤にも大きな被害が生じており、農産物の生産や流通に影響を与えています。さらには、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、一部の国では、自国の食料確保を優先し、農産品や食料品の輸出を規制する動きがみられるなど、国内において安全・安心な農産物を安定的に供給する重要性が高まっています。

こうした中、北海道が今後とも我が国最大の食料供給地域として、安全・安心で良質な農産物を安定的に供給していくため、農地の持つ潜在力を最大限に発揮させる基盤づくりを進めるとともに、これまでに整備してきた農地や農業水利施設等の計画的な保全管理を進め、これらの基盤づくりを効果的・効率的に推進します。

〈主な具体的取組〉

生産力・競争力を強化する整備を推進

- スマート農業技術の導入や農作業の一層の効率化に向けた農地の大区画化
- 大雨などから農作物の被害を防止・軽減する排水施設や暗渠排水などの整備
- 農業用水の安定供給に向けた用水施設の整備
- 生産性や品質の向上、作物導入の選択肢を広げる畑地かんがい施設の整備
- 健全な土づくりに必要な堆肥投入や客土などの土層改良
- 飼料自給率の向上に資する草地整備
- 乾田直播栽培や高収益作物の導入が容易となる地下かんがいシステムの整備
- スマート農業の効果を最大限発揮させる用排水路のパイプライン化やターン農道の整備
- 水管理の大幅な省力化が可能となる自動給水栓などの整備
- 中山間地域など不利な生産条件の向上に資する整備

生産を支えるインフラの戦略的な保全管理を推進

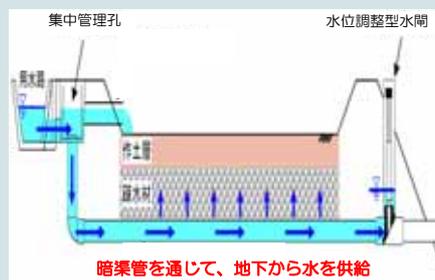
- 農地や農業水利施設等の機能などに関する情報を地図情報と一体的に蓄積・活用
- スtockマネジメント手法を活用した農地や農業水利施設等の計画的な保全管理
- 地域における将来の整備構想に即した計画的な整備

▶ 地下かんがいシステム

水田の地下かんがいは、用水路と暗渠管の上流部を接続する集中管理孔を設置し、暗渠管の末端部にある水閘を閉じて用水を流入させることによって、暗渠管を通じて地下から農地に水を供給するシステムとなっており、農作業の大幅な省力化が可能となる乾田直播栽培の導入拡大や、水田の汎用化、干ばつ時における畑作物への水の供給などのほか、暗渠管の洗浄にも活用されています。

道では、こうした地下かんがいの整備を推進するとともに、効果的な活用に向け、営農指導部門とも連携し、現地研修会やセミナーを開催するなど、普及促進に努めています。

■ 地下かんがいの基本構造



■ 水が給水された農地



■ 普及に向けた取組



推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

▶ スマート農業技術の効果を最大限発揮させる基盤整備

本道では、自動走行農機やGNSSガイダンスシステムなど、スマート農業技術の導入が急速に進んでおり、その導入効果が最大限に発揮されるよう、農作業の効率化に向けた農地の大区画化のほか、農業機械の効率的な旋回が可能となるターン農道の設置、ほ場間の移動が容易となる用排水路のパイプライン化、スマートフォンで水管理の遠隔操作が可能となる自動給水栓の整備などを進めています。

■ 農地の大区画化



■ ロボットトラクタ

■ ターン農道

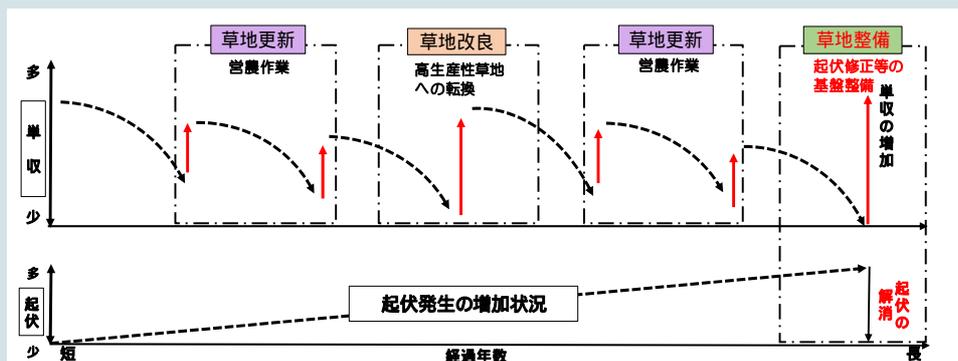
■ 自動給水栓



▶ 飼料自給率の向上に資する草地整備

草地は、経年変化によって雑草の繁茂や起伏の発生、排水不良などが生じるため、適切な時期に改善目的に応じて草地更新や草地改良、草地整備を計画的に実施することが重要です。このため、道では、地元関係機関・団体などと連携を図りながらこうした整備等を効果的に進め、自給飼料の確保に取り組んでいきます。

■ 草地整備



「草地畜産基盤整備事業の推進方針」より
URL https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/5/0/0/4/0/0/4/_/suishinhoushin.pdf

2. 多様な担い手と地域をささえる

関連するSDGsの目標



－意欲ある多様な担い手への支援と安心で快適な農村づくり－

農村では、農家戸数の減少や高齢化の進行などにより、担い手不足が深刻化し、生産活動の低下や優良農地の維持に支障を来すことが懸念されています。このため、意欲ある多様な担い手の育成・確保に向け、農地の利用集積や遊休化防止などが図られるよう、地域の特性や課題に応じた生産基盤の整備を推進するとともに、こうした整備を計画的・効果的に進めるため、農業農村整備に精通した職員の確保・育成に努めます。

さらに、食市場の変化やニーズに対応して国内外の需要を取り込むため、ブランド力の強化や農産物等の販路拡大、地域ぐるみで取り組む農業の6次産業化の展開など、地域の振興を下支えする整備を推進します。

また、集中豪雨や大規模地震など、頻発・激甚化する自然災害に対応するため、ハードとソフトを組み合わせた防災・減災対策を進めるとともに、誰もが快適な生活を営み農村のコミュニティ機能が維持されるよう、生活環境の整備を推進するほか、農業者や農業関係者はもとより、地域住民なども参画した地域共同による農地や農業水利施設等の保全管理活動の取組を進めます。

〈主な具体的取組〉

優良農地の確保と有効利用を推進

- 中心的な担い手への農地の利用集積促進に向けた整備
- 優良農地の確保と耕作放棄地の発生抑制に向けた整備
- 農地の集団化など効率的な農地利用に向けた整備
- 農業機械の安全な走行や効率的な輸送などに向けた農道の整備

地域資源を活かした個性豊かな産業展開を推進

- 新品種や新規作物の導入促進に向けた整備
- 地域特産の高収益作物の生産拡大に向けた整備
- 食味や加工適性などに優れた農産物の安定生産に向けた整備
- 加工や販売などアグリビジネスの展開に必要な省力化に向けた整備

災害に強い農村づくりを推進

- 自然災害による被害を防止・軽減する農業水利施設等の整備
- 洪水被害の未然防止に向けた水田の雨水貯留機能の強化
- ハザードマップの整備など減災対策の検討

農業農村整備の円滑な実施に向けた取組を推進

- 地域の将来の農業ビジョンに即した整備構想づくり
- 地元関係機関・団体などの職員の人材育成に向けた取組
- 迅速な災害復旧に向けた体制づくりとマニュアルなどの整備

推進方針の位置
付け

農業農村を取り
巻く情勢の変化

農業農村整備が
めざすもの

農業農村整備の
展開方向

農業農村整備の
進め方

道の取組

地域編

用語解説

快適で魅力ある農村の生活環境づくりを推進

- 地域コミュニティの活性化に向けた魅力ある農村づくり
- 生活環境の改善に向けた営農飲雑用水施設や集落排水施設等の整備
- 生活環境の向上に資する超高速ブロードバンド基盤の整備に向けた取組
- 農業水利施設等の遠隔監視などスマート農業技術の導入に向けた情報通信環境の整備

地域共同による農地や農業水利施設等の保安全管理活動を推進

- 農地や農業水利施設等の保安全管理活動の強化
- 農業水利施設等の適切な維持管理

▶ ため池の管理体制の強化に向けた取組

国土強靱化に関する施策の基本事項を定めた「国土強靱化基本法（平成25年）」や防災重点農業用ため池に係る工事等の集中的かつ計画的な推進を目的とした「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法（令和2年）」が制定されるなど、近年、自然災害による被害を防止・軽減する対策が講じられています。

こうした中、道では、令和3年11月に北海道土地改良事業団体連合会と連携して「北海道ため池サポートセンター」を設置し、ため池の適正な保安全管理に向けた啓発や災害発生時の未然防止に向けた技術的な支援などを行っており、ため池に関する保安全管理体制の強化に取り組んでいます。

**ため池の困りごと
お聞きします**



ため池から水が溢みだしている。
急いで補修をしたい！

ため池の改修・補修、緊急対策、廃止、点検・管理等の方法や地域での管理体制づくりに関する相談等をお求めします。

相談方法 / 電話または面談（要予約）
相談対象 / ため池管理者の方

**ため池の見回りに
伺います**



ため池を点検したいんだがどのように
行えばいいんだべか？

ため池が適正に保安全管理されているか、また、異常が無いかなど、ため池センターのスタッフが現地をパトロールして確認しますので、お気軽にご相談下さい。

対象ため池 / ・管理者の方より点検要望のあったため池
・サポートセンターとして点検が必要と判断したため池。

様々な相談に応じるほか現地のパトロールや技術的アドバイスなどを実施

▶ 農村地域の振興を下支えする農業農村整備

農地の大区画化や暗渠排水など生産基盤の整備を行うことで、農作業の効率化や農作物の安定生産などが図られるほか、品質の向上や均一化によるブランド力の強化や、余剰時間を活用した新たな作物の導入、さらには、特産品による6次産業化の展開など、農業農村整備は農村地域の振興にも貢献しています。



和寒町では、基盤整備の実施により農作業の効率化や排水性の改善が図られ、高収益作物を含めた輪作体系が確立されました。特にかぼちゃやキャベツは、生産者・町・企業が一体となって和寒ブランドをPRしており、ネット販売も行う特産品となっています。

北見市では、基盤整備により農作業の効率化が進み、余剰時間を活用して高収益作物である「ところピンクにんにく」の生産を行っています。また、加工品の工場を誘致し、農産品の高付加価値化にも取り組んでいます。

3. 豊かな農村環境をささえる

関連するSDGsの目標



－環境への配慮と都市と農村をつなぐ絆づくり－

農村では、持続的な農業の営みと地域の自然が深く関わって、豊かな環境が形づくられているとともに、多様な生物が生息し、国土保全やアメニティ、教育・文化などといった多面的な機能も有しており、こうした農村環境を良好に保全し、次世代に引き継いでいくことが重要です。このため、多様な生物が生息できる豊かな自然や農村景観などの農村環境との調和に配慮した農業農村整備を推進します。

さらに、世界的な異常気象の一因とされる地球温暖化への対応に長期的な視点で取り組むため、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すとした「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、温室効果ガスの排出削減に寄与する基盤整備を進めるとともに、安全でクリーンな再生可能エネルギーの活用に取り組みます。

加えて、都市に住む人々の農業・農村に関する理解が深まるよう、農業・農村の持つ魅力や多面的な機能についての情報を積極的に発信するとともに、農村ツーリズムなどを通じて都市と農村との交流を進め、関係人口の裾野を広げる取組を推進します。併せて、多様な人々が参画する、景観形成や生態系保全、施設の維持管理などの共同活動への支援を進めます。

〈主な具体的取組〉

温室効果ガス削減に向けた整備を推進

- 農業機械の燃料消費を低減し二酸化炭素の排出を抑制する農地の大区画化
- 農地の排水性の改善により温室効果ガスの発生を抑制する暗渠排水の整備
- バイオマスや小水力等の再生可能エネルギーの有効活用

環境や景観に配慮した整備を推進

- 生態系に配慮した魚道や排水路等の整備
- 農道橋のふくろう衝突防止フェンスなど希少動物の保全に向けた施設の整備
- 農村景観の向上に資する植栽活動などの取組

農村と都市をつなぐ絆を強化

- 農業・農村の持つ役割や魅力の積極的な情報発信
- 消費者と生産者をつなぐ都市と農村の交流
- 地域住民と一体となった農村環境保全のための活動

▶農村ツーリズム「農たび・北海道」の取組

道では、農村の有する豊かな地域資源を活かし、農業や観光業など多様な主体が地域ぐるみで旅行者を受け入れ、都市と農村との交流を促進する「農村ツーリズム」の取組を進め、農業・農村への理解の促進や、農村地域の活性化を図っています。



酪農体験



推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

05

農業農村整備の進め方

推進方針の位置
付け

農業農村を取り
巻く情勢の変化

農業農村整備が
めざすもの

農業農村整備の
展開方向

農業農村整備の
進め方

道の取組

地域編

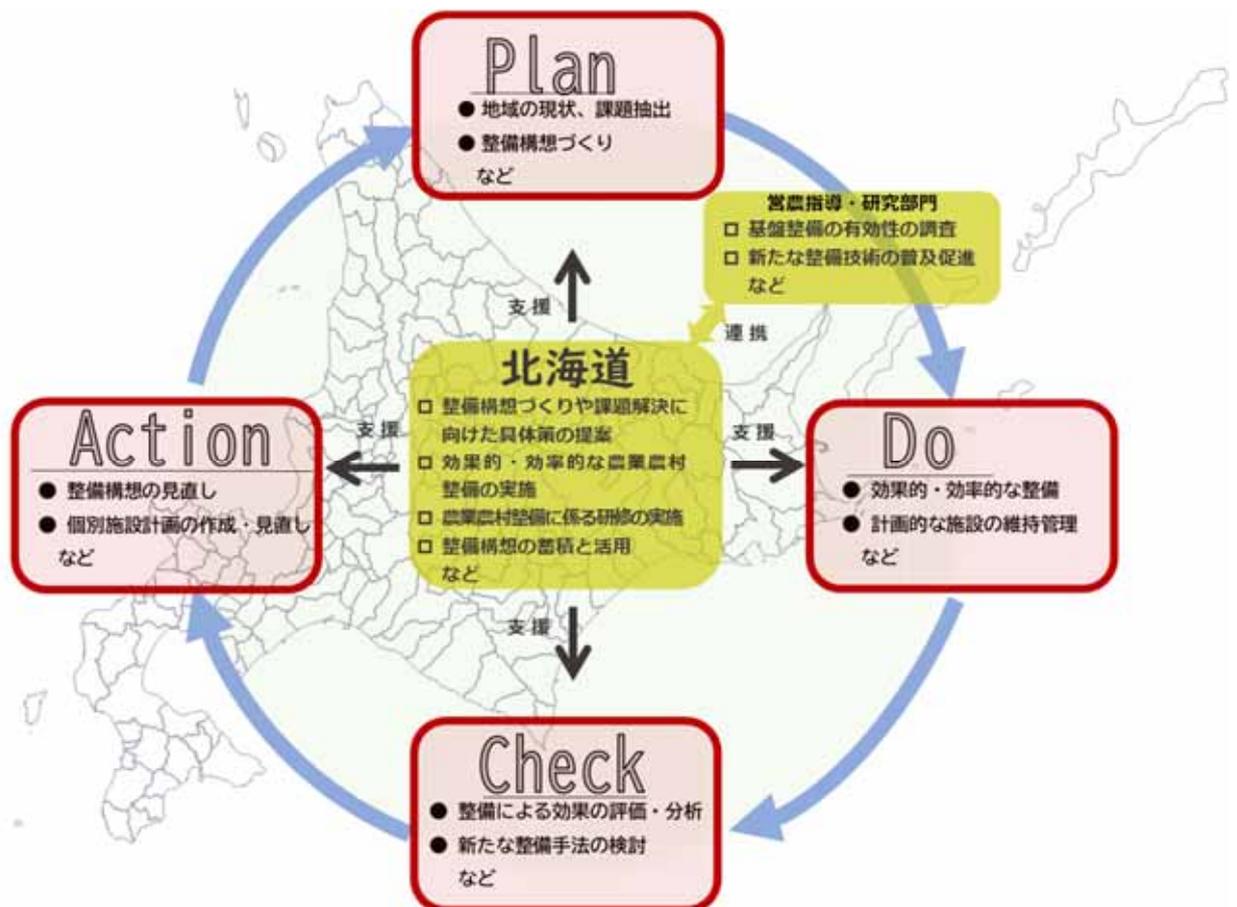
用語解説

豊かな農村空間を創造するためには、地域が主体的に地域資源の保全・整備を図り、これらを有機的に組み合わせ、創意工夫により地域の持つ魅力を最大限に発揮していくことが必要です。

そのためには、農業者や地域の関係者自らが、地域の課題を踏まえた将来の農業ビジョンについての合意形成を図り、その実現に向けた必要な整備に計画的・効果的に取り組み、さらにその評価や改善までを行うPDCAサイクルに基づいて、農業・農村づくりを進めることが重要です。

これらの取組に当たっては、農業者や農業関係団体、市町村、道などがそれぞれの役割の下、主体性と協働の意識を持って進めることが必要です。

このため、道では、こうした地域主体の取組が幅広く展開されるよう、地域の合意形成や計画的な整備に向けた整備構想づくりに必要な情報の提供やアドバイス、さらには評価・改善に有効な手法の助言など、営農指導・試験研究部門とも連携を図りながら積極的に支援します。また、整備に当たっては、農業者の知恵や経験を活かすとともに、戦略的な保全管理の整備手法を導入するなど、より効果的・効率的に進めます。併せて、景観保全や農業水利施設等の管理など地域共同で行う活動に住民の参加を促進するなど、地域の活性化に向けた活動を支援します。



『豊かな農村空間の創造』に向けて、道は次の取組を積極的に進めます。

1. 地域支援の取組

(1) 地域の課題解決に向けた支援

地域において、将来の農業ビジョンや、その実現に向けた整備構想などの話合いが円滑に進み、共通した認識が醸成され、課題解決に向けた取組が積極的に展開されるよう、営農指導・試験研究部門などとも連携しながら、情報提供や具体策の提案などの支援を行います。また、地域の課題解決に向けた新たな農業関係施策の検討を進めるとともに、国に対して積極的に政策提案を行います。

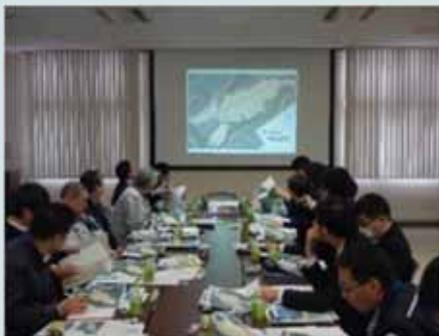
主な取組

- 整備構想を話し合うための情報提供
- 地域課題の解決のために必要な具体策の提案
- 農業改良普及センター、試験研究機関などとの連携及び情報の共有
- 地域との情報交換や意見交換の場の充実
- 整備を促進する施策の検討
- 国に対する政策提案及び要望

地域の農業ビジョンに即した整備構想づくりへの支援

道では、地元関係機関・団体と連携を図りながら、地域の農業者が将来の農業ビジョンについて話し合う「地域活性化懇談会」を開催するとともに、それに即した整備構想を農地や施設の機能診断結果などを参考にしながら作成し、地域の合意を形成する地域支援の取組を進めています。

■ 地域活性化懇談会



■ 農地の機能診断



(2) 農業農村整備に精通した人材の確保・育成

市町村や土地改良区、JAなど地元関係機関・団体では、農業農村整備に精通した職員が退職などにより減少し、技術力の低下や担い手不足が深刻化しており、地域では、経年劣化が進行する農地や農業用施設の計画的な整備や、頻発する災害からの迅速な復旧などに支障が生じることが懸念されています。このため、道はもとより、地元関係機関・団体などの職員を対象とした技術力の向上に向けた支援を行うとともに、大規模自然災害を想定した危機管理マニュアルの作成や、それに即した訓練を実施するなど、地域における農業農村整備に精通した人材の確保・育成を支援します。また、災害発生時には、地域と連携しながら、被災した農地や農業用施設の復旧を支援します。

主な取組

- 農業農村整備に関する技術力の向上に向けた各種研修の実施
- 災害復旧に必要な行動を時系列に取りまとめた危機管理マニュアルの作成
- 大規模自然災害の発生を想定した体制づくりと訓練の実施
- 農地や農業用施設の復旧の支援

農業農村整備に精通した人材の育成

道では、北海道土地改良事業団体連合会とも連携を図りながら、地元関係機関・団体などの職員も対象とした研修を実施するとともに、大規模自然災害が発生した場合に「いつ」「だれが」「何を」「どのように」行動すべきかを時系列に示した「農地・農業用施設の大規模自然災害における危機管理マニュアル」を作成し、それに即して定期的に訓練を実施するなど、迅速かつ適切な復旧対応が可能な体制づくりに取り組んでいます。

■ コンクリート構造物の補修に係る研修



■ 災害復旧に係る実務演習



2. 効果的・効率的な農業農村整備の推進

農業農村整備をより効果的・効率的に推進するため、戦略的な保全管理による計画的な整備やきめ細かな整備を推進するほか、新たな技術の導入やコストの低減を図る取組を積極的に進めます。

(1) 戦略的な保全管理

① 農地や農業水利施設等の保全管理

農地や農業水利施設、農道等の長寿命化を図るため、ストックマネジメント手法を活用して機能診断に基づく劣化状況等に応じた補修・更新などを計画的に行う、戦略的な保全管理を推進するとともに、頻発する災害を未然に防ぐ農地防災施設の整備を推進します。また、農業関係者のみならず、地域住民が参加する保全管理活動を支援します。

主な取組

- スtockマネジメント手法の導入
- 地域住民が取り組む保全管理活動の支援
- 地震や洪水などに備える防災・減災対策の強化
- 農地や農業水利施設等の維持管理に関するマニュアルの作成と関係者への配布

長寿命化によるライフサイクルコスト低減の取組

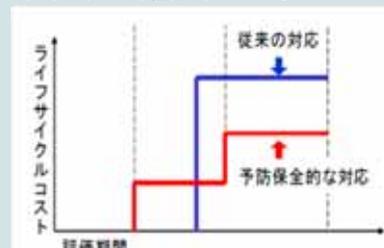
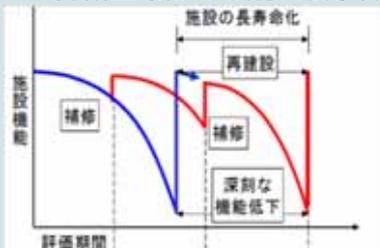
過去に整備された農業水利施設等は、近年、老朽化が進んでおり、劣化による機能低下が懸念されています。

このため、道では、施設管理者である土地改良区や市町村と連携し、施設の築造年や維持管理状況、補修履歴のほか、機能診断結果に基づく改修の時期や内容などを示した「個別施設計画」の策定を進め、長寿命化によるライフサイクルコストの低減に向けた取組を積極的に推進しています。

■ 機能診断に基づき施設の状態を評価



■ 予防保全対策による施設の長寿命化、ライフサイクルコストの低減のイメージ



② 「農地・施設保全整備情報」等を活用した計画的な整備

戦略的な保全管理を推進するため、農地や農業水利施設等の過去の整備履歴や機能診断情報などをGISデータとして地図情報システムに蓄積する「農地・施設保全整備情報」の取組を進めるとともに、それを活用して地域ごとに中長期の視点で最適な整備時期を想定し見える化した「整備カレンダー」を作成し、整備内容と併せて提案するなど、地域の整備構想づくりを支援し、農業農村整備を計画的に推進します。

主な取組

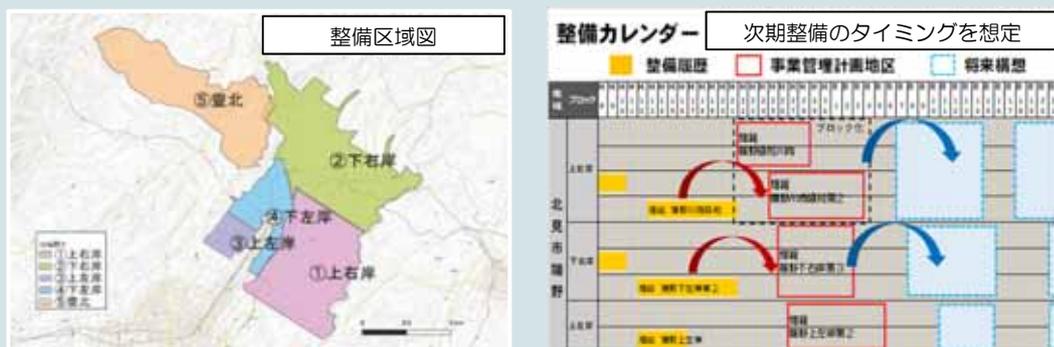
- 地域における将来の整備構想の作成に必要な情報の提供
- 地域課題を解決するための技術的提案
- 農地や農業水利施設等の機能診断とそれに基づく補修・更新手法などの提案
- GISの操作スキルを持つ人材を育成するための研修会等の実施
- 中長期の視点で地域における将来の整備時期を想定し見える化した「整備カレンダー」の提案

農地・施設保全整備情報等の活用による整備構想づくり

道では、過去に整備した農地や農業水利施設等の整備履歴や、機能診断情報などを地図情報システムに蓄積する「農地・施設保全整備情報」の取組を進めています。こうして蓄積した情報は、農地や農業水利施設等の長寿命化を図るための改修時期や工法などの技術的提案のほか、地域における将来の整備構想を話し合う時の有効なツールとして、また、災害が発生した際の被災箇所や復旧対応の確認などに積極的に活用しています。



また、道では、過去の整備履歴を踏まえながら、地域ごとに中長期の最適な整備時期を想定し見える化した「整備カレンダー」を作成する取組を進めており、作成したカレンダーは、地域の整備構想づくりや合意形成を図るための有効なツールとして活用し、農業農村整備を計画的・効果的に推進しています。



(2) きめ細かな整備

営農形態や農地の状況に応じたきめ細かな整備を行うため、ほ場の状況などを詳細に記載した農地カルテを活用し、弾力的な整備を推進します。また、整備完了後に有効性などの評価を行い、必要な改善を進めます。

主な取組

- ほ場ごとの排水状況や作物・営農形態などを記載した農地カルテの作成
- 農地の状況や営農形態などに応じた弾力的な整備の実施
- 整備後の有効性調査や満足度調査などの実施

農業生産基盤整備の有効性調査

道では、暗渠排水や畑地かんがいなどの農業農村整備の有効性について、調査・分析を行っています。この調査によると、暗渠排水の整備では、農作物の収量増や品質の向上、農作業時間の短縮などの効果が確認されているほか、水田で整備が進められている集中管理孔を活用した地下かんがいの導入により、転作作物の収量が増加する効果が確認されています。また、近年、頻発している大雨や長雨などによる被害を大幅に軽減することも確認されています。

■暗渠排水による収量増の効果



■地下かんがい（集中管理孔）による収量増の効果



(3) 新たな技術の導入とコストの低減

新たな整備技術や手法などを検討し、積極的に導入します。また、現場の工夫等による工事コストの低減はもとより、ストックマネジメント手法を活用した維持管理・更新や、発注者のみならず受注者の業務内容の見直しを含めた、総合的なコストの縮減に取り組めます。

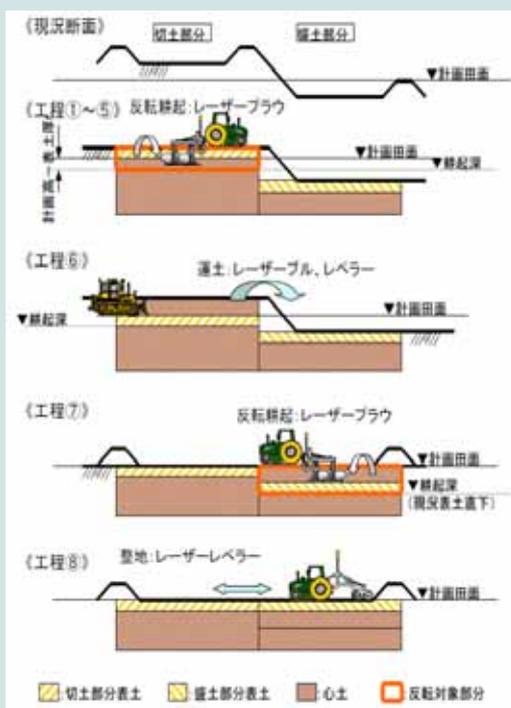
主な取組

- 農地の総合的な排水対策手法の検討
- GNSSなどを活用した農作業の効率化・精密化に対応する整備手法の検討
- ドローンなどを活用した整備手法の検討
- 新たな整備技術に関する情報の収集・提供及び普及促進
- 農業農村整備に関する技術の蓄積と伝承
- 工事コストをはじめライフサイクルコストの低減に向けた取組の推進
- 受発注者双方の業務内容を見直し効率化を図る業務改善の取組の推進

整備コストの縮減に向けた取組（反転均平工法）

反転均平工法は、レーザープラウを用いて土を反転させ、区画整理を行う工法で、従来の工法と比較すると、表土扱いの必要が無く運土量が少ないことと、ゴムクローラトラクタの牽引作業により作業効率が向上するため、施工期間が短く、また、工事費が約1割～6割縮減されます。地形や土壌、施工時期などの条件に制約はありますが、道では、関係者を対象にした現地研修会を開催するなど、この工法の積極的な普及促進に取り組んでいます。

■反転均平工法のイメージ



■現地研修会



3. 環境に配慮した農業農村整備の推進

温室効果ガスの排出削減に資する整備や再生可能エネルギーの活用を検討を進めるほか、生物多様性や美しい景観などの農村環境を良好に保全していくため、環境との調和に配慮した農業農村整備を推進します。

主な取組

- 地球温暖化に配慮した農業農村整備の推進
- 小水力発電など再生可能エネルギーの活用の推進
- 生態系や景観など環境との調和に配慮した整備の推進

農業農村整備と地球温暖化対策

道では、農業農村整備の実施による温室効果ガスの排出量の変化を評価するシステムを開発し、可視化する取組を進めています。

この取組により、農地の大区画化では、農作業が効率化し農業機械の燃料消費が低減され二酸化炭素(CO₂)の排出量が抑制されるほか、暗渠排水では、排水性が改善し、水田のメタンガス(CH₄)や畑地の一酸化二窒素(N₂O)の発生が抑制されるなど、農業農村整備が環境負荷の軽減に寄与することが確認されています。



4. 道民の理解と地域住民等の参加の促進

農業農村整備の役割や取組への道民の理解を促進するため、ホームページやSNSを活用した積極的な情報発信のほか、学校教育とも連携した農村体験学習などの取組を推進するとともに、入札情報の公開など公共事業に対する透明性の確保に努めます。

また、地域住民の保全活動などへの参加や地域が取り組む農村の活性化に向けた活動を促すため、国や市町村、農業団体などとも連携を図りながら、地域資源の維持・向上を図る共同活動や都市と農村との交流を促進する取組などを積極的に支援します。

主な取組

- 学校教育と連携した学習会の実施
- 農業農村整備のPR活動を通じた住民との交流の促進
- ホームページ等を活用した農業農村整備に関する情報の発信
- 入札情報の公開など公共事業に対する道民への説明責任の徹底
- 水路の土砂上げや補修など地域が共同で取り組む活動への支援
- 地域住民が取り組む農村の活性化に向けた活動への支援
- 農村の活性化に向けた活動をコーディネートする人材の育成への支援
- 都市と農村との交流促進に向け地域ぐるみで取り組む農村ツーリズムへの支援

ホームページやSNSを活用した情報発信

道では、未来を担う子供たちが「食」の大切さや農村環境の保全の必要性、農業農村整備の役割などを学習し理解が深められるよう、学校と連携した出前授業や農作業体験、施工現場の見学会などを開催しています。

また、広く一般の方々にも農業の大切さや農業農村整備の効果などが理解できるよう、ホームページやSNSなどを通じて積極的に情報発信を行っています。

■ 出前授業



■ 農作業体験



■ 施工現場見学会



■ 無料動画共有サイトを活用した情報発信



空知

石狩

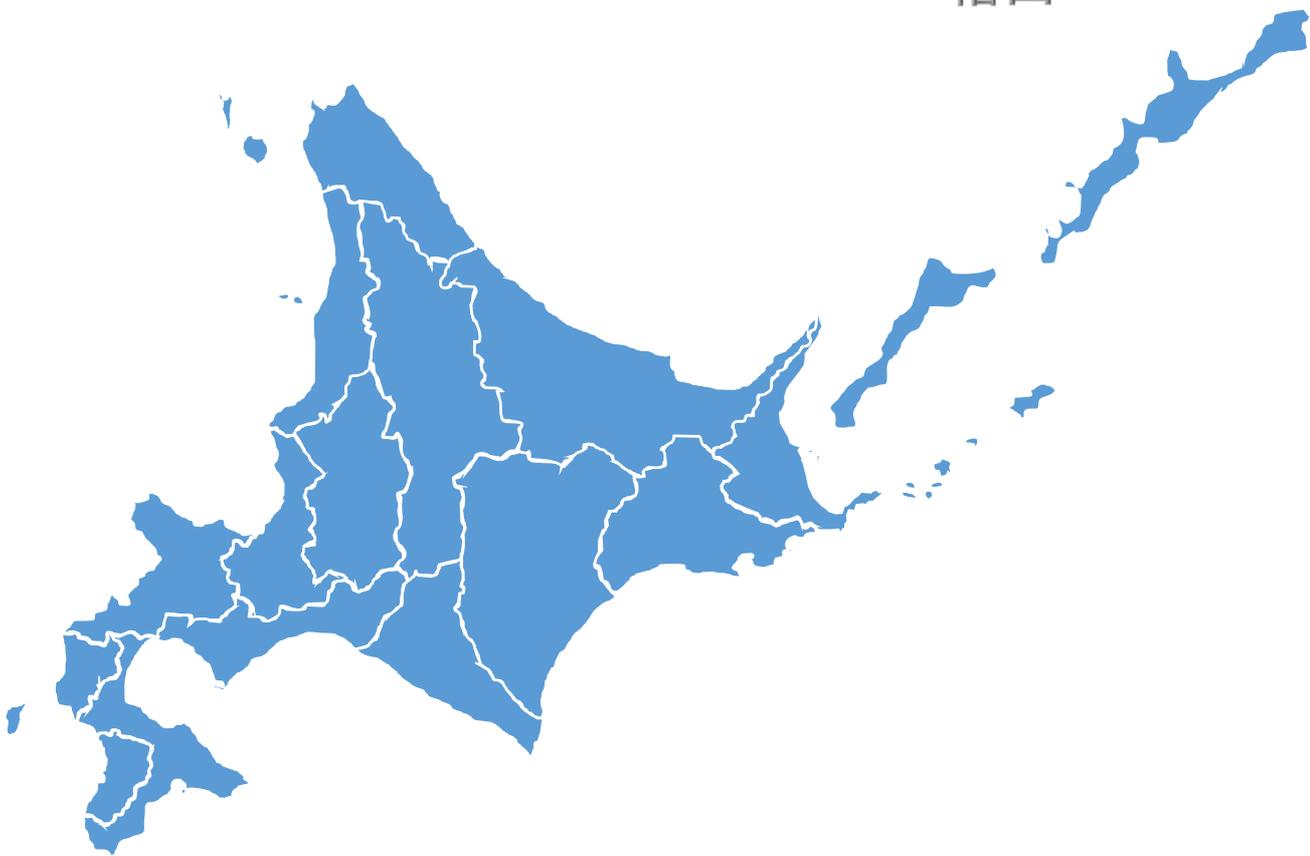
後志

胆振

日高

渡島

檜山



上川

留萌

宗谷

オホーツク

十勝

釧路

根室

推進方針の位置
付け

農業農村を取り
巻く情勢の変化

農業農村整備が
めざすもの

農業農村整備の
展開方向

農業農村整備の
進め方

道の取組

地域編

用語解説

1 管内農業の特色

- 水稲や大豆は、全道一の作付け面積を誇るほか、高収益作物であるブロッコリーやキャベツ、はくさいなどの葉茎菜類も多く作付けされています。
- 管内では地域別に特色のある営農が展開されています。

【北空知地域】

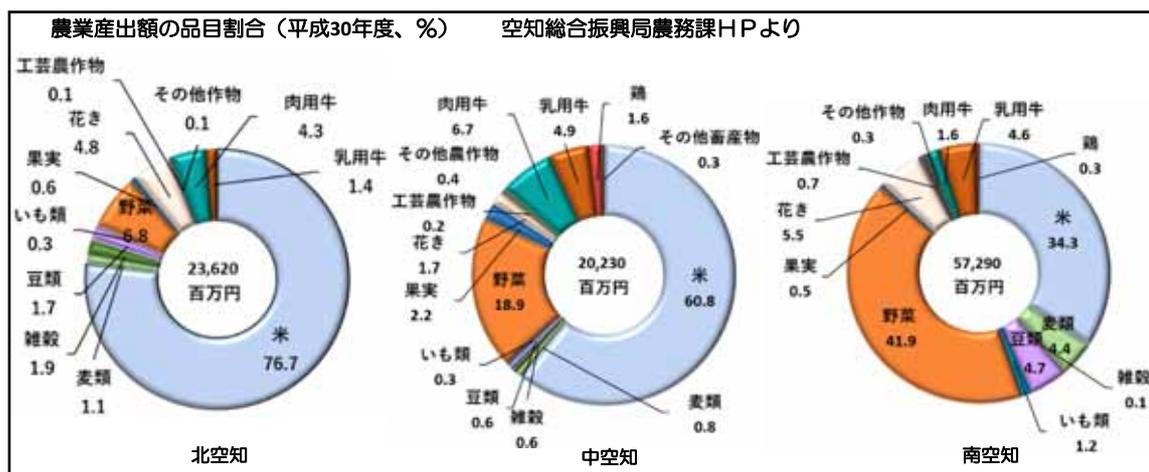
水稲を基幹作物として、畑作のほか野菜・花きなどの施設園芸作物との複合経営が営まれています。

【中空知地域】

水稲を基幹作物として、小麦や大豆、馬鈴しょやかぼちゃなどとの複合経営のほか、果樹や酪農、肉用牛を主とする経営も含め多様な営農が営まれています。

【南空知地域】

転作が進み、小麦や大豆などに加え、たまねぎやブロッコリーなどの露地野菜のほか、トマトや花きなどの施設園芸など多種多様な作物が栽培されています。



2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 農家戸数の減少や農業者の高齢化が進み、集落機能の低下が危惧されている中、担い手農家に農地集積が進み、1戸当たりの経営耕地面積は増加しています。そのため、大区画化などにより省力化・効率化された営農を展開する大規模な土地利用型農業を見据え、スマート農業技術の導入を希望する農業者が多くなっています。
- 近年の気候変動に伴い、自然災害が頻発・激甚化していることから、農村地域の防災・減災対策を進めることが必要です。水害対策を目的とした遊水池を設置するなど、防災への意識が高い地域もありますが、対策を進めるに当たっては、農地や農業用施設が有する防災効果についての理解を一層深めていくことが重要です。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、消費動向や農産物の購買状況が変化しており、オンラインを活用した販売手法の強化が必要となっています。また、スマート農業技術の導入を図るため、情報通信基盤など農村地域のインフラの整備を進める必要があります。

3 これからの農業農村整備

(1) 安定した品質と生産量の確保に向けた農業生産基盤の整備

- 農作業の一層の省力化に向けた農地の整備
 - ・ほ場の大区画化
 - ・ターン農道、耕作道と管理道の設置
 - ・スマート農業技術の導入に向けた情報通信基盤の整備
- 水管理作業の省力化のための用排水整備
 - ・自動給排水栓の設置
 - ・用排水路のパイプライン化
 - ・ため池、頭首工などの取水施設等の管理の省力化



ほ場の大区画化



ターン農道、自動給水栓の設置

(2) 多様な農業経営に対応するための農業生産基盤の整備

- 土地条件や営農条件に合わせた整備
 - ・中山間地域における区画形状や施設線形を考慮した低コストな整備
 - ・泥炭地帯における農地の沈下などを考慮した整備
 - ・作付作物を考慮した暗渠排水などの整備

(3) 農村地域の強靱化と環境への配慮

- 防災・減災対策と農業水利施設等の戦略的な保全管理
 - ・ため池などの耐震整備
 - ・水田の雨水貯留機能の強化に資する区画整理
 - ・情報通信基盤に係る整備
 - ・用排水路や営農用水施設の長寿命化
 - ・農道の機能保全に向けた整備
- 自然環境への負荷を軽減
 - ・河川への影響を軽減する工法の検討



老朽化したポンプ施設の更新

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

1 管内農業の特色

- 石狩地域は、6市1町1村からなり、全道の44%の人口（237万人）が集中する大都市圏を形成しており、都市近郊の利点を活かした農産物の直売、農業体験などが盛んに行われています。
- 石狩川などの豊かな水を利用して、稲作を中心に発展してきましたが、昭和45年（1970年）の米の生産調整を契機に、小麦や豆类などの畑作、ミニトマトやブロッコリーなどの野菜のほか、ユリやカーネーションなどの花きを含めた複合経営が広がってきました。



- 管内の販売農家1戸当たりの経営耕地面積は13.8haとなっており、全道平均の28.5haと比較すると小規模ですが、規模拡大に意欲がある農業者が多いことから、徐々に経営耕地面積は拡大しています。

2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 可変施肥やリモートセンシングなどのスマート農業技術を活かし、営農の省力化・効率化が図られています。
- 企業や飲食店と連携した加工品開発やイベント等への出店など、大消費地に隣接する立地条件を活かした取組もみられます。
- 農村地域には、特色のある歴史や伝統文化のほか、豊かな自然や食があり、都市部を中心として、これらの魅力を体感したいという方々が増えています。
- 経営規模が拡大していることから、適切なほ場管理や良好な土壌を維持することがより一層求められます。
- 農家戸数は減少を続け、農業者の高齢化率（65歳以上の高齢者の割合）も40%を超えており、農村集落のコミュニティの維持や多面的機能の十分な発揮に懸念が生じています。



【伝統文化】

入植の当時から集落で継承されている神楽

■石狩管内の農家戸数・農業者の高齢化率の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」等

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

3 これからの農業農村整備

(1) 都市近郊農業など多様な農業の基盤をつくる取組

- 規模拡大を目指す農業者が、効率的な農業経営を営むことが出来るよう、スマート農業技術の導入を視野に入れた整備を推進します。
- 将来の営農形態を見据えて整備の検討が出来るよう、農業改良普及センターと連携し、農地の管理状況の把握や、日々進化を続けている営農技術に関する情報の発信にも努めながら、基盤整備の手法を提案していきます。



2021年は記録的な高温少雨によって、農作物に大きな被害がりましたが、集中管理孔を活用した地下かんがいを行うことによって、ブロッコリーやかぼちゃ、大豆などの生育が促され、例年と同様の収量が確保された事例がみられました。

(2) 農業・農村の多面的機能の発揮に向けた取組

- 野鳥の繁殖など生物の生息環境へ配慮した整備を進めます。
- 田んぼダムなど、災害を未然に防止するための取組の拡大に努めます。
- 用排水路などの農業用施設の保全管理や花壇づくりなどの環境美化を支援します。
- 農業・農村の魅力をPRするため、農業農村整備や豊かな農村空間に関する写真などの情報を発信します。



当別町では、2001年から亜麻が栽培され、亜麻仁油を用いた商品が開発されています。亜麻は薄紫の可憐な花をつけるため、その美しい景観を目的に多くの来訪者があります。また、毎年7月には亜麻祭りが開催され、2千人以上の参加者で賑わいます。

(3) 農村集落のコミュニティの維持・強化や農村活性化の取組

- 小中学生が農業・農村の魅力を体感できる農作業体験や農業用施設の見学会などの取組を支援します。
- 石狩の特色ある歴史や伝統文化などを活かした集落コミュニティの維持・強化を図る取組を進めます。
- 若手農業者や農村ツーリズムの実践者など、多様な人材の広域的なネットワークを構築し、都市と農村との交流や農産物の特徴を活かした食づくりなどの活動を支援します。



毎年、当別町において農業や農業用施設に触れる体験イベントが行われます。篠津中央土地改良区、新篠津土地改良区が主催し、田植えや収穫体験に加え、篠津運河をボートに乗って見学する催しもあり、札幌などから多くの親子連れが訪れます。

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

1 管内農業の特色

○ 後志地域は日本海側気候に属し、全般的に春から夏は温暖で冬は降雪量が多くなります。管内ではそれぞれの地域で特色ある農業が展開されています。

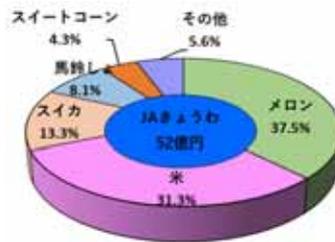
【北後志地域】

温暖な気候により果樹栽培が盛んな地域で、りんごやおとう、ぶどう（醸造用を含む）などに加え、ミニトマト、パプリカ、花きなどの施設園芸も主要品目となっています。



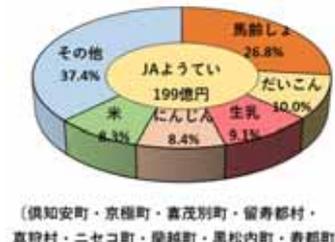
【岩宇地域】

比較的降雪が少なく、主に、水稲、すいか、メロン、生食用馬鈴しょやスイートコーンが栽培されています。



【羊蹄山麓・南後志地域】

道内でも有数の豪雪地域で、生食用馬鈴しょ、だいこん、にんじん、ゆり根、アスパラガスなどの全国屈指の産地となっています。



また、夏期に冷涼な黒松内町は酪農や種馬鈴しょなどの生産が盛んで、蘭越町は道内有数の良食味米生産地として有名です。

■各農協の販売取扱高（R元） ※後志総合振興局農務課HPより

2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

○管内の農家人口

- ・ 2020年から2030年までの10年間で約3割の農家人口の減少が推測されており、一層の過疎化の進行とともに農業生産活動の縮小が懸念されています。
- ・ そのため、経営規模の拡大を図り、管内の農業生産活動を維持していくことが必要となっています。



○自然災害への対応

- ・近年、局所的な大雨等による被害が頻発していることから、「安全・安心で良質な食料の安定供給」のため、農地の排水対策など自然災害による被害の防止・軽減に向けた整備が必要です。



降雨後のほ場への湛水状況

3 これからの農業農村整備

(1) 生産性の向上のための基盤整備

- 「農地の大区画化」の一層の推進
 - ・「換地」による農地の集約化（団地化）
 - ・直播栽培に不可欠な「集中管理孔」の普及、農家への啓発

(2) 「スマート農業技術の導入・普及」を前提とした基盤整備

- ・GNSSガイダンスや自動操舵システムの機能を最大限発揮させるための農地の大区画化や通信環境整備のほか、自動給水栓の設置等

農地の大区画化



農地を大区画化することで、農作業の効率化が図られるとともに、スマート農業技術の導入が容易となります。

(3) リスク軽減による収益の確保

- 近年頻発する局所的な大雨等への対応
 - ・機動力のある団体営事業の活用、防災減災事業の実施 等

(4) 地域ブランド力の維持・向上

- 「ようてい」、「らんこし米」、「らいでん」等各種ブランドを支える基盤整備
 - ・農地の大区画化の推進
 - ・用水路や揚水機場等水利施設の計画的な整備更新や統廃合
 - ・用水（畑かん）施設の老朽化対策

「らんこし米」



蘭越町では、毎年、お米の食味日本一を決める米-1（こめワン）グランプリを開催しています。蘭越町のお米も過去に何度もグランプリを受賞しています。

(米-1グランプリinらんこし実行委員会HPより)

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

1 管内農業の特色

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

- 胆振地域は、東西に約150kmと長く、冬は温暖で、夏は冷涼な気候を活かし「北海道で採れて胆振で採れない農産物はない」と言われるほど、バラエティに富んだ作物の生産が行われています。

【胆振東部地域】

水稲が中心であり、高品質米である地域ブランド「たんとうまい」の主産地となっています。また、レタス・トマトなどの施設野菜、メロン、かぼちゃ、花き、和牛、ハスカップ、軽種馬の生産も盛んです。

【胆振西部地域】

温暖な気候を活かし、露地野菜や高級菜豆のほか、果樹、水稲など多種多様な農産物が生産されています。また、酪農・畜産も営まれています。

- 初期投資が比較的少ない野菜生産の好適地であり、生産者が主体となった就農受入体制の構築が進んでいることなどから、新規参入者の割合が高い地域となっています。



水稲や野菜、果樹など多種多様な農作物を生産



「たんとうまい」



「伊達野菜」



「豊浦いちご」

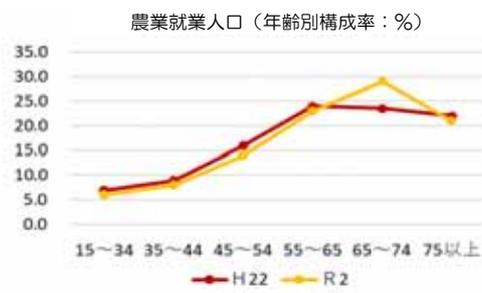
2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 農家戸数の減少や農業者の高齢化により、耕作放棄地の増加や生産基盤の脆弱化、集落機能の低下が懸念されています。



(資料：農林業センサス)

※R2は、専業、兼業の別が廃止



(資料：農林業センサス)

- また、一戸当たりの経営耕地面積が拡大し、労働力不足が課題となっていることから、農地の大区画化や農業機械の大型化により生産体制の強化を図るなど、経営の効率化を進める必要があります。

3 これからの農業農村整備

(1) 効果的な基盤整備の推進

- 恵まれた気候の中、多種多様な作物を生産し、高品質米の「たんとうまい」や多種多品目からなる「伊達野菜」など多くの地域ブランドがあります。
- 農家戸数の減少や農業者の高齢化が進行しており、1戸当たりの経営耕地面積の拡大が必要となる中、担い手が不足しているほか、先進地域に比べ農地の大区画化や用水路のパイプライン化が進んでいないなどの課題を抱えています。
- これらの課題を解決し、管内農業が持続的に発展するよう、多種多様な作物に対応した弾力的な整備や、スマート農業技術の導入を容易とする整備を推進します。

(2) 災害に強い農業・農村づくり

- 平成30年北海道胆振東部地震により管内の農地や農業用施設が大きな被害を受けるなど、近年、大雨や地震などによる自然災害が頻発・激甚化しています。そのため、農業用施設の耐震化、長寿命化などを進め、災害に強い農業・農村づくりを推進します。
- 災害が発生した場合には、農地や農業用施設などの復旧への支援はもとより、農協や農業改良普及センターをはじめとする関係機関と連携し、作物の生育・収量調査を行うなど、営農再開に向けた支援に取り組みます。

(3) 課題解決に向けた地域への支援

- これまでの整備履歴や機能診断情報などを蓄積するとともに、地域ごとに中長期的な視点での整備時期を想定した整備カレンダーを作成し、地域へ情報提供や整備手法の提案を行うなど、地域の将来構想の検討や課題解決に向けた支援に取り組みます。

(4) 農業・農村の持つ役割や魅力の積極的な情報発信

- 都市部に住む人々など広く一般の方々にも、農業・農村の役割や魅力を理解していただけるよう、学校教育との連携や地域イベントを通じて情報発信を行います。

これまでの実績や活動内容

- ・管内農業農村整備情報連絡会議の開催
- ・胆振東部地震で被災した農地のフォローアップ調査
- ・北海道大谷室蘭高等学校「食育」授業の実施（出前事業）

■被災農地のフォローアップ調査



■出前授業による情報発信



1 管内農業の特色

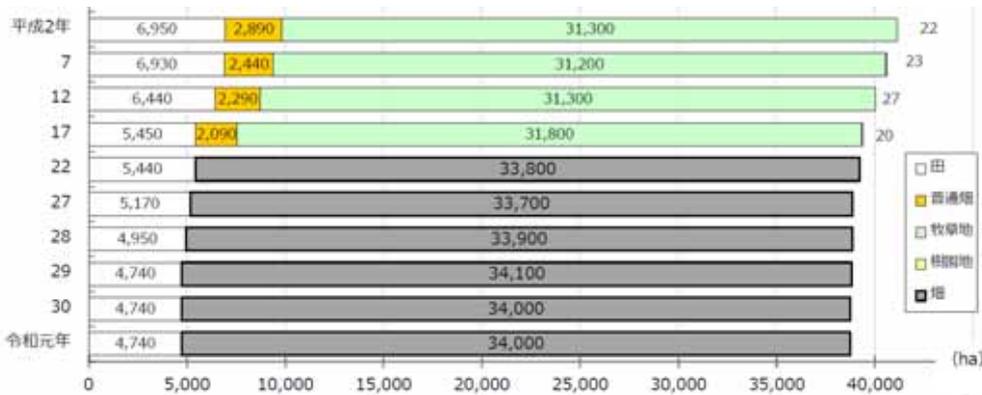
- 日高地域は、国内生産頭数の約8割を占める全国一の軽種馬生産をはじめ、稲作や施設園芸のほか、酪農や肉用牛の生産などが行われています。
- 管内における農業産出額（H30）を部門別に見ると畜産その他（軽種馬含む）が56%を占めており、次いで乳用牛及び肉用牛がそれぞれ14～15%、野菜類が13%となっています。
- 水稻は、全耕地面積の約3%（令和元年）で作付けされており、その60%程度を日高町と平取町が占めています。
- 施設園芸は、野菜・花き類ともに全国的にも高いシェアを誇り、平取町のトマト、新ひだか町のミニトマト、日高町門別の軟白ねぎ、新冠町のピーマン、浦河町・様似町のいちご、新ひだか町・浦河町の花きなど、各町で野菜等の振興を図っています。
- 軽種馬生産からの転換や経営の複合化などにより肉用牛の生産が増加しており、日高町、平取町、新ひだか町、浦河町、えりも町などで盛んに生産され、「びらとり和牛」や「みついし牛」などの地域を代表するブランドを確立しています。



2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 管内の耕地面積は年々減少傾向しており、地目別にみると令和元年時点で田が4,740ha、畑が34,000haとなっており、畑が8割以上を占めています。

日高管内 耕地面積の推移



(資料：日高振興局農務課HP)

- 農業者の高齢化の進行や後継者不足により水田地帯の農家戸数は減少しているため、一戸当たりの経営耕地面積が拡大するとともに作業の負担は増加しています。そのため草地、飼料作物への転作が進み、水稻の作付面積は減少傾向にあります。
- 施設園芸野菜では、近年、新規就農者を一定数確保しており、野菜の作付面積は拡大しています。一方で、地域の人口が減少しているほか、通年雇用となっていないことなどから他業種との競合に弱く、雇用人材が慢性的に不足している状況にあります。
- 軽種馬、肉牛の生産頭数は、近年横ばい傾向で推移していますが、酪農については減少傾向が見られます。また、畜産における就農時の初期投資が多額であることから、新規参入者の確保が進んでおらず、飼養農家戸数は減少傾向にあります。

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

3 これからの農業農村整備

(1) いのちの源「食」の生産をささえる

- 農地の大区画化や暗渠排水等の整備を推進し、生産性や品質の向上を図ることで、高収益作物の導入を促進します。
- 用排水路等の整備を推進するとともに、農業水利施設等が将来にわたって有効活用されるよう適切に保全し、現在の水稻作付面積の維持を目指します。
- 公共牧場等の草地整備の推進により、飼料自給率の向上や育成に係る経費の節減を図り、管内畜産物の地域ブランド力の向上を後押しします。



(2) 多様な担い手と地域をささえる

- 減少傾向にある管内の耕地面積の維持及び一戸当たり経営耕地面積の増大による作業の負担軽減のため、農地の大区画化や暗渠排水等の整備を推進し、生産性の向上や担い手への農地集積を図ります。
- 老朽化している農道の保全や、ライフラインである営農用水施設及び農業集落排水の機能強化を推進し、営農条件や農村生活環境の改善、維持管理費の軽減や防災・減災対策を図ります。
- 農業・農村の有する多面的機能を維持するため、農地や農業水利施設などの地域資源の保全管理や、質的向上を図る地域の共同活動を支援します。



(3) 豊かな農村環境をささえる

- 農業・農村の魅力を発信していきます。
- 農村における地域活動（田んぼの学校での食育活動等）を支援していきます。



推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

1 管内農業の特色

- 渡島地域は、南北に長く、気候や土地条件が異なることから、水稻、野菜、花き、果樹、酪農など、地域毎に特色ある農業生産が展開されています。
- 特に温暖な気候を活かした園芸作物の生産が盛んで、長ねぎ、にら、かぶ、ほうれんそう及びカーネーションは、全道でも有数の生産量を誇っており、にんじんやだいこんは、早出し栽培などの端境期出荷が可能な地域となっています。
- 道南生まれの米「ふっくりんこ」は、食味ランキングで最高位である「特A」の評価を受けており、北海道を代表する米となっています。
- 酪農畜産業では、北部の酪農、駒ヶ岳山麓の養豚、大沼や西部での肉用牛飼育などが行われています。
- 広域ブランドの「函館育ち」による販売促進のほか、管内の気象特性を活かした醸造用ぶどうや酒米の生産も行われており、ワイナリーや酒蔵など他業種や国外の資本等の参入が実現しています。



■長ネギやにらなど多くの園芸作物を生産

<北斗市・七飯町>



「函館育ち」ブランドで全国へ出荷

<知内町>



「北の華」ブランドで知られ高品質

■箱館醸蔵(有)

<七飯町>



地元の酒米と水で造る日本酒「郷宝」

2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 平均経営耕地面積は、全道平均を下回っており、全道で最も経営規模が小さい地域となっています。
- 農家戸数の減少や農業者の高齢化が、全道平均を上回るペースで進んでいることから、多様な担い手の育成やスマート農業技術の導入による労働力軽減対策を検討するなど、省力化や収益性の高い農業経営を実現することが必要です。



資料：農林業センサス

3 これからの農業農村整備

(1) 農業農村整備の計画的な推進

- 地元関係団体との意見交換会を開催し、地域の課題を踏まえた将来構想の合意形成を図り、その実現に向け、必要な基盤整備を計画的に推進することで、生産力・競争力の向上に取り組みます。

<北斗市>



意見交換会の開催

(2) 生産コストの削減と収益性の向上

- スマート農業技術の導入が容易となる基盤整備の推進や集中管理孔を活用した水稲直播の拡大など、農作業の一層の省力化を図ります。また、農業改良普及センター・JAと連携し、地下かんがい施設を活用した高収益作物の導入に向けた取組を進めていきます。

(3) 地域のニーズに沿ったきめ細かな基盤整備

- 果樹や施設園芸における湿害対策など、地域のニーズに沿ったきめ細かな整備を行うことで、他業種を含めた地域振興を推進していきます。

<北斗市>



ハウス間暗渠

(4) 農地や農業水利施設等の戦略的な保全管理

- 暗渠管の洗浄が可能となる集中管理孔の設置を進めるとともに、機能診断結果に基づき農業水利施設や農道の保全管理や更新整備を推進し、農村地域のインフラの持続性を確保していきます。

(5) 自給飼料に立脚した酪農経営の確立

- 大型機械の効率的な稼働に資する不陸修正や泥炭等の特殊土壌に対処する排水改良などの草地整備を推進するとともに、農作業の分業化を可能とする、公共牧場やTMRセンターの整備を進めます。

<八雲町>



大型機械による収穫作業

これまでの実績や活動内容

- ・水田の大区画化や汎用化による高収益作物の生産拡大
- ・地下かんがい技術の啓発・普及や施設長寿命化のための研修会の開催
- ・ワイン醸造用ぶどうほ場やビニールハウスにおける湿害対策
- ・農産物処理加工施設整備（酒蔵・ワイナリー）による収益性の高い農産物の生産・販売等の実現に向けた取組を総合的に支援

<北斗市>



整備した汎用田で長ねぎを生産

<北斗市>



地下かんがい研修会の開催

<函館市>



ワイン用ぶどうの排水対策

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

1 管内農業の特色

推進方針の位置
付け

農業農村を取り
巻く情勢の変化

農業農村整備が
めざすもの

農業農村整備の
展開方向

農業農村整備の
進め方

道の取組

地域編

用語解説

○ 檜山地域は北海道の南西部、渡島半島の日本海側に位置しており、道内では比較的温暖な気候を活かし、水稻や豆類を中心に、馬鈴しょ、小麦、野菜などの畑作、酪農や肉牛、養豚などバラエティに富んだ多様な農業が展開され、厚沢部町では、焼酎工場と連携したさつまいもの生産、奥尻町では島内で生産されたぶどうによるワイン醸造なども行われています。



○ 経営規模は、全道平均に比べ小さいものの、道内で3例目となる地理的表示（GI）を取得した「今金男しゃく」などが、主に本州市場を中心に地域ブランドとして有名です。



焼酎工場（厚沢部町）



今金男しゃく（GI登録）

2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 管内は農家戸数の減少や農業者の高齢化が進行しており、担い手の減少による農業生産活動や農地・農業用施設の維持管理に必要な労働力の不足が懸念されています。
- 一戸当たりの経営規模は拡大していますが、管内の新規就農者は、年間10名程度にとどまるなど、後継者不足・担い手不足が深刻になっています。



資料：「農業センサス」
 ※H17までは旧熊石町を含む
 ※R2は専業、兼業の別が廃止
 ※R7,R12は「北海道立騒動研究機構農業試験場資料」（第42号）による予測値



資料：「農林業センサス」
 ※H17までは旧熊石町を含む

3 これからの農業農村整備

(1) いのちの源「食」の生産をささえる取組

- ほ場の大区画化や排水改良などにより生産性や品質の向上を図るほか、近年多発する自然災害の被害を軽減するための防災・減災対策を進めます。さらに、農業機械の自動操舵やハウス内での自動かん水など、スマート農業技術の積極的な導入による省力化・効率化や、新たな消費者ニーズに対応する高収益作物の導入と定着などを着実に推進するとともに、生産者自らが取り組む農産物の高付加価値化を支援するなど、農家経営の安定化、地域の農業競争力の強化を図ります。

(2) 多様な担い手と地域をささえる取組

- 次世代の農業・農村を支える多様な人材の育成・確保に向け、地域が行う新規就農者の受け入れ講習や農福連携などの他分野からの参入の取組を支援するとともに、基盤整備を契機とした農地の利用集積や流動化が促進されるよう、技術的な支援や情報提供を積極的に行います。

(3) 豊かな農村環境をささえる取組

- 清流日本一で知られる後志利別川や2つの道立自然公園を有する管内の豊かな自然環境や農村景観を未来に引き継ぐため、農村環境との調和に配慮した農業農村整備を計画的に実施します。また、農業者自らが行う有機農産物のPRイベントなどの都市と農村との交流事例や、消費者の関心が高いクリーン農業や有機農業についての情報を発信するなど、農業・農村の役割や魅力の理解を深めるための取組を積極的に推進します。

「農地・施設保全整備情報（GIS）」を活用した地域整備構想支援

前回の基盤整備から30年以上が経過した江差町北部地域において、地域の農業者や関係機関が連携したワーキンググループを設置し、2カ年に渡り地域の課題整理と解決に向けた手法の検討を行いました。振興局からは農地・施設保全整備情報を活用した年齢別耕作者の位置図や経営耕地の分散状況図などの基礎データを提供し、地域課題を「見える化」するための支援を行い、その結果、道営事業による新たな基盤整備の採択につながりました。



「農地・施設保全整備情報」を活用して農地や農業用施設の整備水準などについて情報提供



地域の課題解決や具体的な整備手法の検討に向けた話し合い

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

1 管内農業の特色

○ 上川地域は北海道のほぼ中央に位置し、大雪山系や夕張山系などの山々に囲まれ、名寄・上川・富良野の盆地が広がり、それぞれの盆地を流れる天塩川、石狩川、空知川が広大な沃野を形成しています。

○ 南北に224kmと細長く、北部・中部・南部で気候が異なるため、各地域で特色のある農業が開かれています。

【北部地域】

・ 水稲、小麦、そば、大豆などの土地利用型作物のほか、昼夜の寒暖の差を活かし、かぼちゃ、アスパラガス、スイートコーンなどの栽培が盛んです。

【中部地域】

・ 道内有数の良食味米の生産地域であり、水稲と小麦、大豆、野菜類との複合経営が営まれています。

・ 旭川市南部から美瑛町にかけての畑作丘陵地帯には、美しい農村景観が広がり、多くの観光客が訪れるなど高い知名度があり、その知名度を活かして農産物のブランド化が図られています。

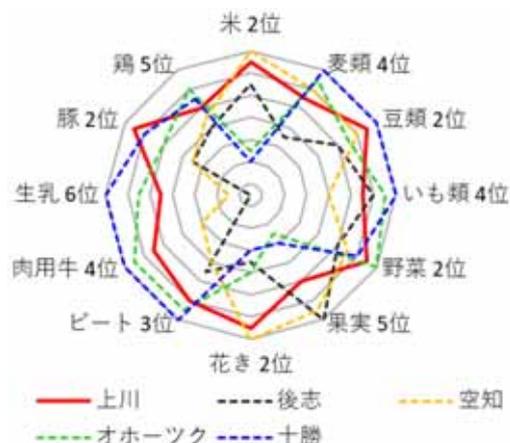
【南部地域】

・ 水稲及び麦類、馬鈴しょ、てん菜などの畑作物のほか、たまねぎ・にんじん・すいか・メロン・トマトなど様々な品目が栽培されるとともに、ブランド化が図られ、直売なども盛んに行われています

○ 酪農や肉用牛・養豚・養鶏などの畜産が全域で営まれているほか、めん羊によるまちおこしや地域の特産品を目指すスーパーフード（キヌア）や薬用作物の栽培など、地域振興とも強く結びついた農産物の生産、加工の取組が行われています。



■ 品目別産出額の道内順位

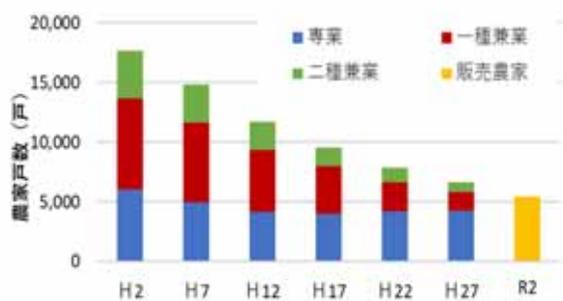


2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 管内の農業者数は年々減少し、平成2年に17,655戸だった農家戸数は、令和2年には5,411戸まで減少しています。
- 基幹的農業従事者に占める65歳以上の比率は年々高まっており、平成7年の22%から令和2年には46%となっています。

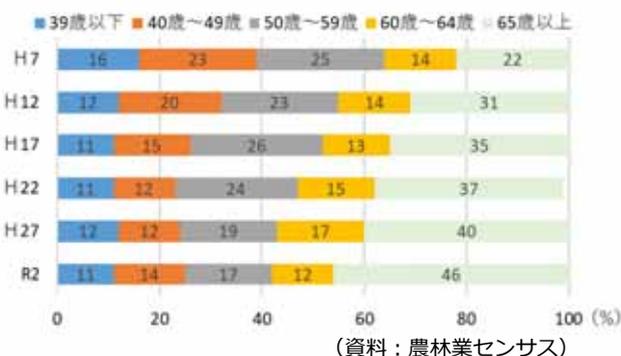
- 近年、農家戸数は減少し、一戸当たりの経営耕地面積が増加しています。加えて農業者の高齢化が進んでいることから、営農の一層の省力化・効率化が重要です。また、生産条件の不利な中山間地域等では、必要とされる農業生産基盤の整備や、農地集約化の取組が進んでおらず、将来的に引き受け手のない農地が発生することが懸念されています。

■ 農家戸数の推移



(資料：農林業センサス)
※R2は、専業、兼業の別が廃止

■ 基幹的農業従事者数（個人経営体）の年齢構成の推移



(資料：農林業センサス)

3 これからの農業農村整備

(1) いのちの源「食」の生産をささえる

- 農業者の減少や高齢化が進む中、農業生産を継続するため、ICTを導入した農作業の自動化などにより、一層の省力化・効率化を進めることが求められています。そのため、ほ場の大区画化などの整備を推進し、農業生産性の向上を図ります。

(2) 多様な担い手と地域をささえる

- 多様な新規就農者や担い手による農業生産を推進するため、農地中間管理事業や市町村の担い手対策と連携した農業生産基盤の整備が求められており、それと併せて、農道、農業用排水施設などを地域が適切に管理等を行う体制の整備を支援します。

(3) 豊かな農村環境をささえる

- 農村地帯が創り出す景観が高い評価を得ており、農業者や地域住民はもとより、観光等で地域を訪れる全ての人々がゆとりと安らぎを得られるよう、農村環境の維持・保全に努めます。



美瑛町の丘陵地から望む十勝岳連峰



旭川市近郊から望む大雪山連峰

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

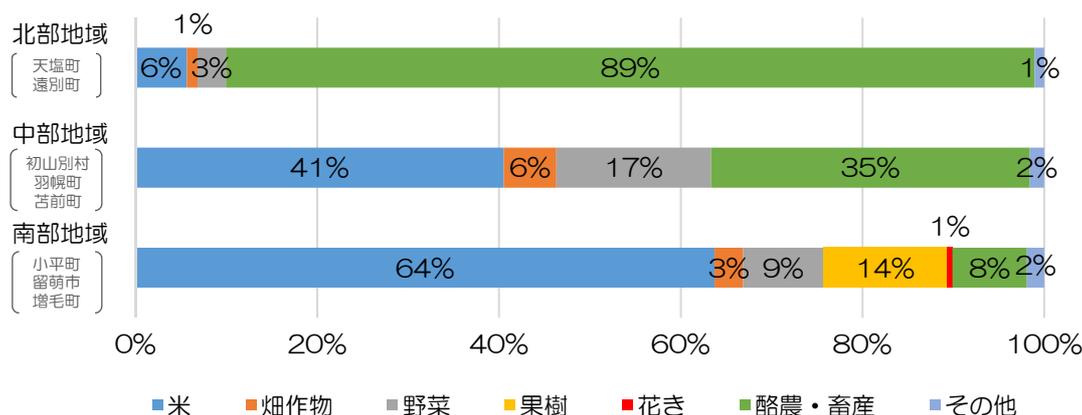
用語解説

1 管内農業の特色

- 留萌地域は、日本海に沿って南北130kmにわたり、細長く、中小の河川沿いの沢地帯とその下流部の平坦地に農地が分布しています。
- 南北で異なる土壌や地形、気候などの自然条件を活かし、道内有数の良食味米産地として高い評価を得ているほか、パスタやハンバーガー、つけ麺などに利用され「ルルロツソ」ブランドとして当地域のみで栽培される超硬質小麦や、YES!clean登録の野菜、暑寒別岳の豊かな湧水を活かした果樹、夏の冷涼な気候を活かした花き、市場評価の高い肉用牛、飼料基盤に恵まれた乳用牛など、高品質で多様な特色のある農産物が生産されています。



令和元年度地域別農業産出額（シェア）



(農林水産省：市町村別農業産出額)

2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 管内全域が、いわゆる中山間地域であり、全道平均を超えるスピードで農家戸数の減少や農業者の高齢化が進行しています。今後も農家戸数の減少が予測される中で、担い手への農地集積を着実に進める必要があります。
- また、サロベツ原野が広がる北部では、泥炭土が広く分布しており、遠別町以南の平坦部には灰色低地土が広がっており、いずれも透排水性に問題のある土壤であることから、農地の排水改良が必要となっています。
- 水田は、昭和40～50年代のほ場整備で造成されたほ場が多く、50a未満の小区画が全体の9割以上を占めていることから、大区画化などより農作業の一層の効率化を図ることが必要となっています。

3 これからの農業農村整備

(1) いのちの源「食」の生産をささえる

- 安全・安心で高品質な農産物の生産を支える基盤整備
- 自動操舵システムや自動給水栓など、スマート農業技術の導入による効果を最大限に発揮させる基盤の整備

(2) 多様な担い手と地域をささえる

- 基盤整備による農地の集積・集約化、多様な担い手・人材の育成・確保
- 農産物の加工・直売など6次産業化や関連産業との連携

(3) 豊かな農村環境をささえる

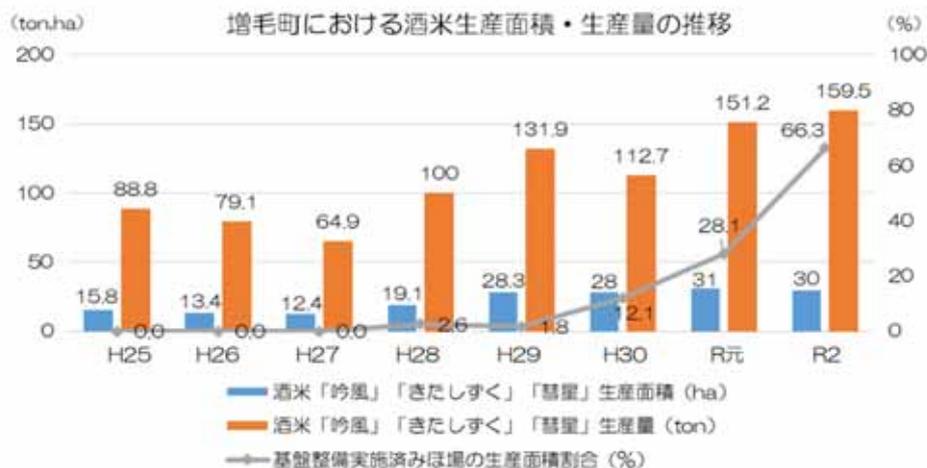
- 地域資源を生かした農業体験など都市と農村の交流
- 多面的機能を支える共同活動への支援

基盤整備と地域の活性化 ～増毛町

増毛町では、これまで大規模な基盤整備が行われておらず、区画面積が平均13aと管内で最も整備水準が低い状況でした。人口減少や高齢化によりこのままでは地域が衰退してしまうという強い危機感から、町・農協が主体となり、地域の将来像について話し合いが行われ、平成24年には「増毛町水田農業検討会」が設立され、省力的な営農技術の導入や生産基盤の整備、売れる米づくりなど、地域の営農方向が共有されるようになりました。

その後、町の農家負担軽減支援策も後押しとなり、基盤整備の実施に大きく舵が切られ、役場内に設置された「農業基盤整備推進室」には、農協や土地連、道からも職員が派遣され、平成26年から町内全域の水田を対象とした道営農地整備事業4地区を実施することとなりました。

また、町内には老舗の日本最北の酒蔵である国稀酒造（株）があり、増毛産米で地酒をつくり、地域振興につなげたいとの思いから、JA青年部と国稀酒造が連携して酒造好適米の作付けを始めました。平成29年には関係機関の呼びかけにより「留萌地区酒米生産協議会」が設立され、安定供給に向けて生産面積の拡大を図っており、令和2年の生産面積は約30haとなっています。



(増毛町聞き取り)

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

3 これからの農業農村整備

(1) 今後のめざす姿

- 小規模であっても低コストで効率の高い経営や、大型化により生産効率を高めた経営など、多様な経営体による、広大な草地を最大限に活用した生産性の高い酪農の展開。
- 活力ある地域コミュニティと、働きやすく、住みやすい環境の中で、地域の未来を担う人材が活躍する酪農の推進。

(2) 整備の方向性

- いのちの源「食」の生産をささえる
 - ・ 「食」の供給力を最大限に発揮させる整備を推進
 - 農地の排水性改善に向けた排水施設、暗渠排水などの整備
 - 飼料の自給率向上に資する草地整備
 - ・ 「食」の生産をささえるインフラの戦略的な保全管理を推進
 - 整備カレンダーを活用した農地や営農飲雑用水施設等の計画的な保全管理
- 多様な担い手と地域をささえる
 - ・ 優良農地の確保と有効利用を推進
 - 農地の集団化などの効率的な農地利用に向けた草地整備
 - ・ 快適で魅力ある農村の生活環境づくりを推進
 - 生活環境の維持、改善に向けた営農飲雑用水施設等の整備
- 豊かな農村環境をささえる
 - ・ 環境に配慮した整備を推進
 - 生態系等に配慮した魚道の整備や、草地整備工事における土砂流出、濁水処理対策の実施

「サロベツ地域農業農村整備事業連絡会議」

サロベツ地域の貴重な自然環境を将来にわたって良好な状態を確保し、地域の農業・漁業等が一体的に発展していくため、国営・道営等の農業農村整備事業に関連する国、道、その他関連機関において、連絡協議の機関を設置し、現地調査及び工事の施工方法について協議を行っています。



連絡会議の様子



現地調査の様子

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

1 管内農業の特色

- オホーツク地域は北海道の北東部に位置し、オホーツク海と約280kmの海岸線で面しています。
- 気候や土地条件などの違いにより、斜網・北見・東紋・西紋の4地域に大別され、それぞれの地域ごとに特色ある農業が営まれています。

【斜網地域】

- ・てん菜、馬鈴しょ、麦類を中心に大規模な畑作農業を展開

【北見地域】

- ・たまねぎ等の野菜を基本として、水稻・酪農などの生産性の高い農業を展開

【東紋地域】

- ・酪農経営を中心としつつ、たまねぎやかぼちゃなどの野菜類や畑作も取り入れた多様な農業経営を展開

【西紋地域】

- ・草地等の土地基盤を活用した大規模な酪農を展開

- 耕地面積は全道の14.5%を占めており、恵まれた土地資源を活かし、全国一の生産量を誇るたまねぎや麦類・てん菜・馬鈴しょなどの畑作、さらには酪農を主体として、生産性の高い農業を展開し、食料供給地域として重要な役割を担っています。
- 近年は、農産物の付加価値向上のため農業者自ら行う加工品の製造・販売や、野菜など収益性の高い作物の導入、ファームイン・直売所・農業体験などによる都市住民との交流といった取組も行われています。



2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

○ 生産現場

- ・畑作においては規模拡大に伴い、省力化・機械化が可能な秋まき小麦の作付けが増加し、小麦の連作やてん菜と馬鈴しょの交互作が行われています。一方、ジャガイモシストセンチュウ類などの重要病害虫が発生しており、生産性の低下が懸念されています。
- ・実需者からは安定した農産物の供給が求められており、全道でも有数の食料供給地域として、期待に応えていく必要があります。

○ 生産者

- ・農家戸数が減少するとともに経営規模の拡大が続く一方、新規参入者は年間数名程度に留まっていることから、労働力不足が大きな課題となっています。

○ 農村環境

- ・集落の人口減少により、農村景観の維持、集落が担っていた草刈りや水路の管理等が困難となってきています。
- ・オホーツク地域の農村が有する豊かな自然に対する関心がより高まっており、都市と農村との交流の取組が定着しつつあります。

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

3 これからの農業農村整備

(1) いのちの源「食」の生産をささえる

- 小麦の連作や重要病害虫の発生等により、豆類の振興による適正な輪作体系の確立が急務であるため、持続可能で先進的な農業の展開に向けた取組を下支えする基盤整備を進めます。
- 農作物の収量や品質の向上、安全・安心な「食」の安定的な供給及び一層の省力化やコスト低減につながるスマート農業技術等の導入に向けた基盤整備を進めます。

(2) 多様な担い手と地域をささえる

- 担い手不足が深刻化し生産活動の低下や優良農地の維持に支障を来すことが懸念されていることから、意欲ある多様な担い手の確保に向けて農地の利用集積や遊休農地の発生防止が図られるよう基盤整備を進めます。
- 農作業受託組織（コントラクター）やTMRセンター、酪農ヘルパー組合などの農作業支援組織などを活用した効率的な営農に取り組めるよう基盤整備を進めます。

(3) 豊かな農村環境をささえる

- 農村が有する多面的機能を維持発揮するために、地域の活動組織への支援を行うとともに、環境に配慮した農業農村整備を推進します。



【魚道工】
河川構造物（落差工）を取り除き、落差を緩和する小段を設けることで、魚類等が自由に行き来できるようになります。

農業農村整備事業による効果（美幌町）

農業農村整備事業の実施により、湿害が解消され、適期の作業が可能となるなど農作業の効率がアップしました。その結果、たまねぎの生産拡大と品質の向上が実現しました。

（※H20年とH30年の比較）

- 【作付面積(たまねぎ)】・・・725 ha から 1,030 ha ⇒ **約1.4倍**
- 【生産額 (たまねぎ)】・・・1,912 百万円 から 2,630 百万円 ⇒ **約1.4倍**
- 【町全体の農家所得】・・・9,793 千円 から 16,005 千円 ⇒ **約1.6倍**



【整備前】
排水不良によりほ場に湛水



【整備後】
排水不良が解消され、大型機械による作業が容易に

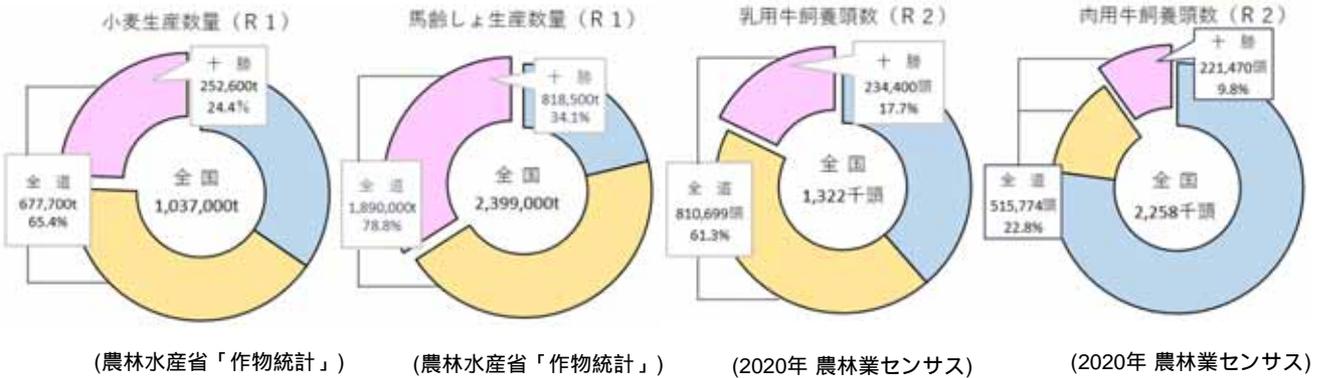
1 管内農業の特色

○ 十勝地域は、本道の耕地面積の22.7% (R2) を占める広大な大地を基礎として、開拓以来、140年に及ぶ先人の努力と農業農村整備事業により実現された高い生産性を活かし、耕畜両部門ともに高水準の生産を実現しています。

近年、全道の農業産出額に占める十勝地域の市町村の割合は約1/4に達するなど、日本最大の農業地域として発展しており、十勝の安全・安心な食は、国内外から高い評価を得ています。



- 畑作では、麦類・豆类・馬鈴しょ・てん菜の4品目を主体とした輪作体系が確立され、多くの品目で全道一の生産量となっています。
- 酪農は、1戸当たりの乳用牛飼養頭数が年々増加し、全道一の受託乳量となっているほか、肉用牛も全道一の飼養頭数となっています。
- 野菜では、長いもをはじめ、えだまめ、ゆり根などが海外へ輸出されています。



2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 農家戸数の減少や農業者の高齢化が進み、農家や営農支援組織の労働力不足が一層深刻になるとともに、農村のインフラや地域コミュニティの脆弱化が懸念されていることから、農村環境を保全する活動などへの支援が重要となっています。
- 経営規模の拡大により、スマート農業などの省力化技術の開発・導入が急速に進展する一方、排水不良や小区画・不整形、末端かんがい施設が整備されていないほ場が存在することから、農作業の省力化や効率化に向けて、一層の生産基盤の整備が求められています。
- 経済のグローバル化の進展や大規模自然災害の発生、更にはコロナ禍による農畜産物の需要低迷や生活様式の変容など、農業・農村を取り巻く情勢の変化への対応が求められています。

3 これからの農業農村整備

(1) 「食」の生産や地域をささえる取組

- 安定した農業生産を確保するため、局地的な豪雨や干ばつなど気候変動に耐えうるほ場の排水対策や畑地かんがい施設の整備のほか、スマート農業技術の導入促進を図るための大区画化・勾配緩和などの区画整理、農産物輸送の効率化や農業車両の安全な走行を確保する農道の整備・保全対策など、十勝の農業生産を支える基盤整備を推進します。



てん菜への散水状況

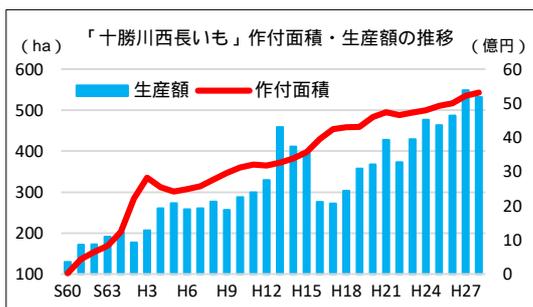
- 酪農・畜産においては、飼料自給率の向上に資する草地畜産基盤や優良な後継牛育成を図る公共牧場の整備のほか、飼養頭数の増大に対応し安定した家畜用水の確保を図るため、営農飲雑用水施設の更新整備を進めます。

(2) 豊かな農村環境をささえる取組

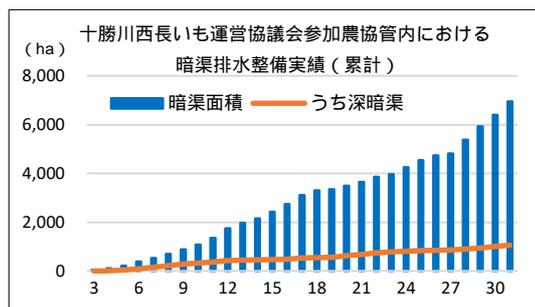
- 多面的機能支払交付金の活用により、農村地域における農道の草刈りや砂利補修、排水路の雑木処理や土砂上げなどの維持管理や補修、農地周りや農道沿線の植栽による景観形成など、地域の共同活動に対する支援を行っていきます。この活動により、農村コミュニティの強化が図られることが期待できます。

(3) これまでの実績

- 台風被害からの農地復旧（H29～R2）
平成28年に発生した一連の台風に伴う記録的大雨で農地や農業用施設に甚大な被害が発生しました。十勝総合振興局では、基盤整備部門と営農指導部門で「十勝・復旧農地土づくり支援プロジェクト」を組織し、関係市町や農協と連携しながら土壌分析や収量調査、営農指導、補完的な生産基盤整備を行い営農再開に向けた支援を行いました。
- 高収益作物の導入拡大
ほ場の排水性の改善を図る排水路や暗渠排水、農作業の効率化を図る区画整理などの整備を進めたことにより、主要4品目の生産拡大や品質向上が図られたほか、作付作物も多様化し、「ながいも」、「にんじん」、「ブロッコリー」、「にんにく」など高収益作物の導入が進んでいます。特に「ながいも」は輸出も拡大しており、その品質は国内外から高い評価を得ています。



(十勝総合振興局調べ)



(十勝総合振興局調べ)

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

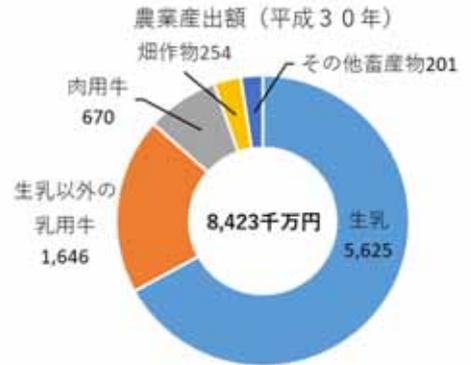
道の取組

地域編

用語解説

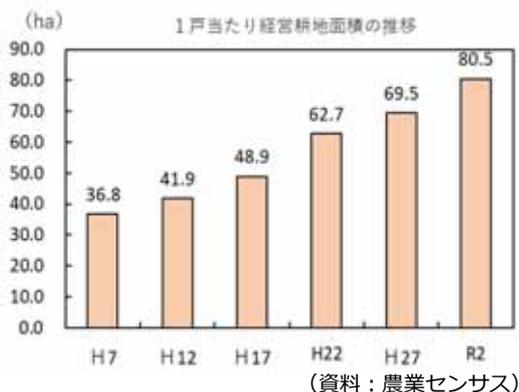
1 管内農業の特色

- 釧路地域は、冷涼な気候と広大な土地を活かした草地型酪農地帯であり、農業産出額のうち、生乳が約65%を占めています。
- 生乳以外の乳用牛を含めると酪農が約85%を占め、釧路農業の基幹となっています。また、肉用牛生産を主体とする畜産が行われています。
- 飼料作物は、冷涼な気候のため、牧草の生産が中心であり、飼料作物に占める飼料用とうもろこしの割合は、5.5%と低くなっていますが、TMRセンターの整備などの動きとあわせ、作付面積はわずかながら増加しています。



2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 農家戸数は年々減少しており、規模拡大に意欲のある農家が離農者の生産基盤を引受けていますが、営農に係る負担の増加などにより、今後、引き受けが困難となることが懸念されています。
- 1戸当たりの経営規模は年々拡大していることに加え、乳牛飼養頭数の増加に伴い、一経営体当たりの労働時間が増加しているため、営農の一層の省力化・効率化を図ることが必要となっています。



推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

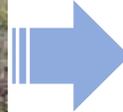
3 これからの農業農村整備

(1) 飼料自給率向上に資する草地整備

- 大型機械の作業性向上や牧草の生育不良の解消を図るため、牧草地の区画整理、起伏修正、障害物除去、暗渠排水などの整備を進めます。



ほ場の起伏や排水不良により、生産性が低下



牧草の品質・収量の向上とともに、大型機械での作業が可能となるなど、生産性が向上

(2) 営農用水の安定供給に向けた施設の整備

- 台風や地震などの災害時においても安定的に営農飲雑用水を供給出来るよう、老朽化した営農用水施設の計画的な更新を進めます。

(3) 農道の整備

- 農産物や営農資材等の輸送距離や時間の短縮のほか、大型車両による輸送効率の向上や地域住民の生活の利便性の向上などを図るため農道の整備を進めます。
- これまでに整備した農道が今後、更新時期を迎えることから、適切な点検診断を行い、長寿命化を図るための保全対策や安全性の確保に向けた対策を進めます。

草地整備における施工時期の平準化

これまでの草地整備は、1番草刈取り後の6月下旬から8月下旬までの夏期に工事が集中することから、天候不順などの際には計画的な施工ができず、翌年度の飼料の確保や適期の工事施工に支障を来していました。

これらを解消するため、秋春施工（秋耕起、春播種）や春施工等を積極的に導入し、工事工期の分散・平準化を行い、計画的かつ着実な整備を推進しています。

<施工時期のパターン>

- ①夏施工（1番草収穫後6月下旬～播種期限8月下旬）
- ②秋春施工（秋耕起、春播種）
- ③春施工

<平準化のための取組事項>

公共牧場の牧区の施工時期を管理者（市町村・農協）と積極的に調整
関係団地及び受益者に対して計画段階から積極的に調整

推進方針の位置
付け

農業農村を取り
巻く情勢の変化

農業農村整備が
めざすもの

農業農村整備の
展開方向

農業農村整備の
進め方

道の取組

地域編

用語解説

1 管内農業の特色

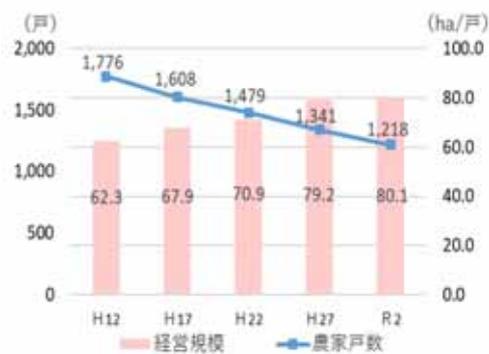
- 根室地域は、北海道の最東端に位置しており、冷涼な気候で酪農に適しており、日照時間が短い中でも生育の良い牧草が栽培され、根釧台地の広大な土地を活かし、自給飼料に立脚した草地型酪農が展開されるなど、日本有数の酪農地帯が形成されています。
- 作付けの大部分が牧草ですが、別海町や中標津町などの比較的気温が高い内陸部では、デントコーンサイレージの作付けが増加しています。
- 生乳の産出額は、平成30年度の管内の農業産出額の7割を超えているほか、生産量は、全道の約2割、全国の約1割を占めています。



大型機械による牧草収穫（別海町）

2 管内農業・農村をとりまく現状と課題

- 近年、乳価上昇により経営は安定しているものの、農家戸数は年々減少し、経営耕地面積が平均80ha/戸となるなど、離農跡地の受け皿となる担い手の規模拡大が進んでいます。このため、草地や牛舎等の生産基盤の管理や農作業の効率化が重要な課題です。
- 省力化機械等の導入により、労働力不足の解消に取り組む経営体がある一方、乳価や輸入配合飼料価格の動向に影響を受けることから、こうした外部価格の変動に左右されない経営の確立に向け、良質な自給飼料生産などに資する草地整備を進めることが重要です。
- 千島海溝沿い巨大地震の可能性が示唆されるなどしている中、近年頻発・激甚化する自然災害に備え、農道・集落道や営農飲雑用水等インフラ施設の老朽化更新など、食料の安定供給に資する農村地域の強靱化が必要です。
- 管内の市町村などでは、農業農村整備を支える技術者の高齢化や担い手不足が深刻化しており、若手職員の確保や育成、技術の継承が課題となっています。
- 草地整備の施工時期が1番草の収穫後に集中し計画的な施工に支障を来しているほか、建設業では人材の確保が厳しい状況となっている中、今後も計画的な整備を進めるとともに建設業が地域の守り手としての役割を果たすためには、働き方改革の実現に向けた職場環境や業務の改善を進めることが必要です。



根室管内の農家戸数及び経営規模
(出典：農業センサス)

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

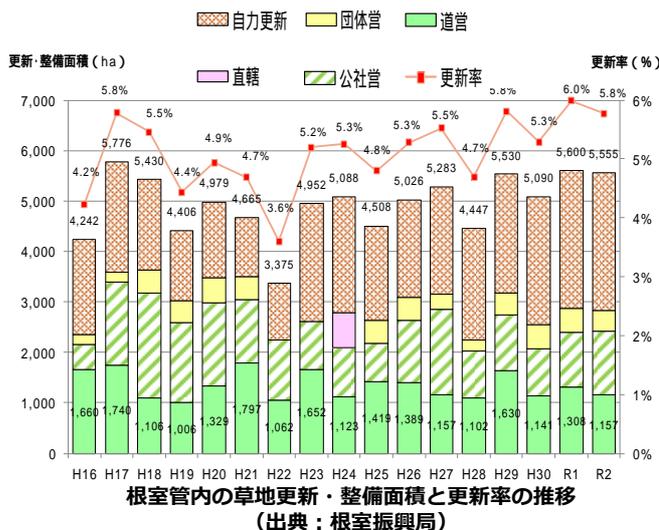
地域編

用語解説

3 これからの農業農村整備

(1) いのちの源「食」の生産をささえる

- 経年変化による草地の不陸や植生の悪化は、牧草収量や乳質、乳量の低下に直結し、牧場経営に与える影響が大きいことから、持続的な酪農経営が可能となるよう、道営・公社営を主体とした計画的な草地整備に取り組みます。
- 農業者や関係機関と連携し、施工時期を春や秋に分散することで建設業者の施工能力を向上させる“施工時期の平準化”の取組を重点的に進めています。
- 整備後の草地を長寿命化することが重要です。そのため、除草や追播・施肥のほか、暗渠排水等の湿害対策で草地を適切に管理するとともに、近年増加しているエゾシカによる食害を防止するため、シカ柵など鳥獣害防止施設の検討も必要です。



(2) 多様な担い手と地域をささえる

- 新農業人フェアへの出展や農業系学校等への働きかけを通じ、都市部の若者を中心に農村地域への田園回帰を育み、地域経済を支える酪農を未来へ継承しようと、酪農研修機能を備えた牧場の建設・運営がJAを中心に進められています。
- 農福連携や他産業とのマッチング、新規参入者の広域的な受入体制の整備など、地域の中核として活躍が期待される「多様な担い手」の育成・確保を推進します。
- 低コストでゆとりのある農業経営を確立するため、搾乳ロボットなどのスマート農業技術の導入や営農支援組織の育成・強化など、より一層の省力化や生産性の向上に向けた取組を推進します。



つなぎ牛舎用搾乳ロボット (別海町)

(3) 豊かな農村環境をささえる

- 地域で生産される農畜産物を活用した加工食品の開発・販売といった地域住民による活動を支援します。
- 仔牛が草を食む牧歌的風景や良好な農村環境など、酪農地域が持つ多面的機能を次世代に引き継ぐため、農道の補修や草刈り等、地域資源の適切な保全管理や質的向上を図る共同活動などの取組を支援します。
- 家畜排せつ物を適切に処理し、有機質肥料として農地に還元するほか、適切な肥培管理や臭気の軽減を行うなど、環境や家畜にもやさしい農業経営の実現に向けた取組を支援します。
- 農道・集落道の改良舗装、営農用水施設の維持管理の効率化により地域のインフラ整備を進めるほか、草地の大区画化により営農にかかる燃料消費を削減するなど、「ゼロカーボン北海道」の実現に資する取組を進めます。



竣工後のスラリストア
吹奏楽野外コンサート (標津町)

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

推進方針の位置
付け

農業農村を取り
巻く情勢の変化

農業農村整備が
めざすもの

農業農村整備の
展開方向

農業農村整備の
進め方

道の取組

地域編

用語解説

あ行

アメニティ

人々の心に快適さや心地よさ、楽しさなどを感じさせるもの。農村アメニティとしては、美しい農村景観や豊富な野生動植物、伝統文化など、農村特有の緑豊かな自然や歴史を基盤とし、ゆとりとうるおいとやすらぎに満ちた居住快適性のこと。

温室効果ガス

地球から宇宙への赤外放射エネルギーを大気中で吸収して熱に変え、地球の気温を上昇させる効果を有する気体の総称で、代表的なものとしては二酸化炭素 (CO₂)、メタン (CH₄)、一酸化二窒素 (N₂O) などがある。

か行

加工適性

品質の優れた農産加工品への適性のこと。

可変施肥

リモートセンシングで測定・分析したほ場や農作物の生育状況から、肥料の散布量を変える技術のこと。

換地

区画形質の変更を伴う土地改良事業の実施により変更された工事前の土地（従前地）に対し、その土地に代わる工事後の新たな土地（換地）を定め、土地改良法に基づく一定の法手続きをとり、各種権利の帰属関係を一挙に解決する手法のこと。

乾田直播栽培

ハウスなどで育てた苗を代かきを行ったほ場に移植する一般的な移植栽培とは異なり、これらの過程を省略して湛水しないほ場に直接播種し、省力化を図るための栽培法のこと。

機能診断

施設等が有する機能（農地の排水性、水利施設の流下能力、コンクリート強度など）を調査し、健全度を評価すること。

高収益作物

単位面積当たりの収益性が高い野菜や果樹、花きなどの作物のこと。

さ行

再生可能エネルギー

太陽光や太陽熱、水力、バイオマス、地熱など、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーのこと。

自動給水栓

末端給水栓で、湛水深や時間により自動的に給水を開始、停止できるようになっているもの。ICT技術との連携により、遠隔からの監視や操作などが可能となり水管理労力や用水口スの一層の節減を見込むことができる。

集落排水施設

集落内及びその周辺部の雨水を地区外に排除する雨水排水施設と、し尿や生活雑排水などの汚水を集めて浄化する汚水処理施設のことであるが、一般的には後者のこと。

小水力

小規模な水力発電に利用可能な中小河川や農業用水などが有する水流エネルギーのこと。

新規参入者

土地や資金を独自に調達（相続・贈与等により親の農地を譲り受けた場合を除く。）し、新たに農業経営を開始した経営の責任者及び共同経営者のこと。

水田の雨水貯留機能

畦畔に囲まれている水田が雨水を一時的に貯留することで、洪水を防止・軽減する機能のこと。

スマート農業

ロボット技術やICTなどの先端技術を活用し、超省力化や高品質生産を可能にする新たな農業のこと。

ストックマネジメント

構造物や施設などの機能診断に基づく機能保全対策の実施を通じて、既存施設の有効活用や長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減するための技術体系及び管理のこと。

草地改良

経年草地の裸地化や雑草繁茂を解消し、生産性の低い牧草地を高生産性草地に転換するため、新たな草種・品種の導入を目的として実施するもの。

草地更新

草地整備後又は草地改良後において、牧草の収量や栄養価（TDN）を維持・回復させるため、営農として農家自ら行うもの。更新の種類としては、植生の状況に応じて、ブラウ等で全面耕起して播種する「完全更新」、表層攪拌法、作溝法、穿孔法等の全面耕起しないで播種する「簡易更新」、「追播」等がある。

草地整備

大型機械作業への支障や生育不良の原因が草地基盤にある場合、牧草地の区画整理、起伏修正、障害物除去、暗渠排水等の基盤整備を目的として実施するもの。

た行

ターン農道

ほ場外で農作業機械が旋回できるように設けたスロープのこと。農作業の効率化、農作業機械による枕地の繰り返しによる排水不良の防止などに有効である。

多面的機能

国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の継承など、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料やその他農産物の供給機能以外の様々な役割のこと。

地理情報システム (GIS)

Geographic Information Systemの略称。位置に関する情報を持ったデータを総合的に管理・加工し、視覚的に表示して高度の分析や迅速な判断を可能にするシステムのこと。

地理的表示 (GI)

農林水産物・食品等の名称で、その名称から当該産品の産地が特定でき、産品の品質や社会的評価等の確立した特性が当該産品と結びついているということ特定できる名称の表示のこと。GIはGeographical Indicationの略。

地域資源

その地域に存在する特徴的な資源である自然資源（水、気候、景観、動植物など）のほか、人的・人文的な資源（歴史、文化、技能、情報など）のこと。

な行

日EU・EPA

EPAはEconomic Partnership Agreementの略で、経済連携協定のこと。物品の関税やサービス貿易の障壁などの削減・撤廃に加え、投資ルールや知的財産の保護などを盛り込み、より幅広い経済関係の強化を目指し特定国・地域間で締結される協定。日本とEUの間では約4年の交渉を経て平成30年(2018年)7月に署名され、31年(2019年)2月に発効した。

認定農業者

農業経営基盤強化促進法に基づき、経営改善を図ろうとする農業者が自ら農業経営改善計画を作成・申請し、市町村の基本構想に照らして適切であり、その計画の達成される見込が確実で、農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために適切である、との基準に適合する農業者として、市町村から認定を受けた者のこと。

農業水利施設

農業生産に必要な水を安定的に供給するための、ため池、頭首工、用水路などの施設や、不要な水を速やかに排出するための排水路などの施設のこと。

農業の6次産業化

農業者が農畜産物の生産（1次産業）だけでなく、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも取り組み農業を活性化させることで、「1次産業の1」×「2次産業の2」×「3次産業の3」のかけ算で6を意味している。

農作業受託組織 (コントラクター)

農作業機械と労働力を有して、農家から農作業を請け負う組織のこと。農業者による営農集団や農業協同組合のほか、民間企業によるものがある。

農村ツーリズム

農山漁村の豊かな自然や食、歴史・文化、生活体験などを観光資源に活かし、農業や観光業など多様な主体が地域ぐるみで取り組む滞在型観光のこと。

農村のコミュニティ

生産や自治、風俗、習慣、歴史、文化などによって形成された深い結びつきを持つ農村地域の共同体のこと。

農地カルテ

農業者からの聞き取りや現地調査などにより、ほ場ごとの排水状況や作物・営農形態・整備要望の内容などを記載した帳票のこと。

農地の利用集積

特定の農業経営者が、所有、借り入れ、農作業受託により農地の利用を集約化すること。担い手への農地の利用集積を図ることにより経営規模が拡大され、構造改革の一層の加速化や農業経営の効率化が図られる。

は行

バイオマス

生物資源(量)を表す概念で、「再生可能な生物由来の有機性資源で、石油や石炭などの化石資源を除いたもの」を指し、具体的には、稲わらやもみ殻、食品廃棄、家畜排せつ物、木くずなどで、エネルギーや新素材などとして利用可能なものを指す。

ハザードマップ

洪水などの災害発生による被害の区域や程度を予測し、地図に表現した災害予測地図のこと。

ファームイン

農家が副業として経営する農家民泊のこと。

保安全管理活動

清掃や植栽の活動、水路や耕作道路の補修など、農地や農業水利施設等を適切に維持・保全する活動のこと。

推進方針の位置付け

農業農村を取り巻く情勢の変化

農業農村整備がめざすもの

農業農村整備の展開方向

農業農村整備の進め方

道の取組

地域編

用語解説

ら行

推進方針の位置
付け

ライフサイクルコスト

施設の建設に要する経費と供用期間中の運転や補修等の管理に要する経費、廃棄に要する経費を合計した金額のこと。

リモートセンシング

光・赤外線・電波などを計測するセンサを用いて、対象物の性質を離れたところ（人工衛星や航空機など）から調べる技術。地形、地質、土地利用などのほか、農業分野では作物の作付状況・収量、土壌の特性、米のタンパク値などの調査に利用されている。

農業農村を取り巻く情勢の変化

酪農ヘルパー

酪農家に代わって、搾乳や飼料給与などの作業に従事する人のこと。酪農家は、朝夕2回の搾乳作業などにより、1年を通じて休みが取りにくい実態にあるが、酪農ヘルパーの利用により休日の確保が可能になる。

農業農村整備がめざすもの

アルファベット

GNSS

Global Navigation Satellite Systemの略で、人工衛星からの信号を受信することにより、世界のどこにいても現在位置を正確に割り出すことが出来る測位システムのこと。「GPS(Global Positioning Systemの略)」は米国、「みちびき(QZSS)」は日本によって運用される衛星測位システムであり、いずれもGNSSのひとつ。

農業農村整備の展開方向

PDCAサイクル

取組などを進める際の基本的なマネジメント手法であり、最初に計画を立て[Plan(計画)]、その計画に沿って実施し[Do(実行)]、実施した結果を評価し[Check(評価)]、目標や進め方を改善する処置を行い次の活動に備える[Action(改善)]の4つの段階で構成されている。

農業農村整備の進め方

SDGs

Sustainable Development Goalsの略で、平成27年(2015年)9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された、令和12年(2030年)を期限とする国際社会全体の開発目標のこと。飢餓や貧困の撲滅、経済成長と雇用、気候変動対策など包括的な17の目標を設定。法的な拘束力は無く、各国の状況に応じた自主的な対応が求められる。

道の取組

SNS

Social Networking Serviceの略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。密接な利用者間のコミュニケーションを可能にしており、最近では、会社や組織の広報としての利用も増えている。

地域編

用語解説

TMRセンター

TMR (Total Mixed Rationの略) は、乳牛が必要とする栄養素(粗飼料や濃厚飼料)がバランス良く配合されている飼料(完全混合飼料)のことで、これを専門的に作り、農家に供給する施設のことをTMRセンターという。TMRは飼料成分が均一であるため、第一胃内の発酵を安定させることができ、乳量、乳質を高位に安定化させ消化器系の疾病を減らし、繁殖成績を向上させる効果がある。

TPP

Trans-Pacific Partnershipの略で環太平洋パートナーシップのこと。TPP協定はアジア太平洋地域において物品関税だけでなく、サービス、投資の自由化を進め、さらには知的財産、金融サービス、電子商取引、国有企業の規律など、幅広い分野で21世紀型のルールを構築する経済連携協定。平成28年(2016年)2月に12カ国が協定に署名したが、翌年1月に米国が離脱を表明したため、11月に残る11カ国がTPP11協定に合意し、30年(2018年)3月に署名され、12月30日に発効した。

YES! clean 表示制度

道内で生産された農産物を対象に、農産物ごとに定められた化学肥料・化学合成農薬の使用の削減など、一定の基準を満たした生産集団が生産・出荷する農産物に「YES! Clean マーク」を表示し、併せて化学肥料や化学合成農薬の成分使用回数などの栽培情報を消費者に知らせる道独自の表示制度で、「北のクリーン農産物表示要領」に基づくもの。

北海道農業農村整備推進方針

発行／北海道農政部
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
TEL (011) 231-4111 (農村設計課)